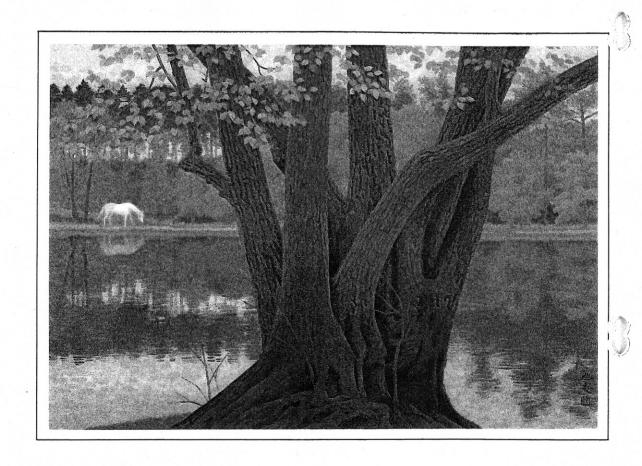
国民と森林

1990年・新春 第 31 号



国民森林会議



由井 確かに林業は冬の時代を迎え、トンネの経営をどうみておられますか。――林業経営をされていて、いまの厳しい林業

田井 確かに林業は冬の時代を迎え、トンネーサイクルでみることは無理があります。 明さだ。しかし、物事には循環の理法が働く。 林業はサイクルが長い。工業化社会の短期の サイクルでみることは無理があります。 林業の状況が苦しい――という現状は認めるが、「だから森林・林業がだめだ」とかいう悲観的な考えをもってはいない。むしろ、 森林・林業は広い角度で見直しをされる段階にある。特に地球環境の保全が人類生存にかかわることとして世界的問題となっているが、 かわることとして世界的問題となっているが、 の意味で二一世紀は森林・林業出番の時代

ろもろの効用をもっている。また外材主導のの商品経済面だけでは測ることの出来ないもなるのではないでしょうか。林業は木材中心ら「森林化社会」が大きな意味をもつ時代といままでの高度工業化社会、情報化社会か

由井直人さんに聞く山林経営の哲学一一世紀は森林・林業の時代

感じ、誇りをもってやっている。難であっても将来に希望をもって生きがいを到来が予想されるようになってきた。いま困

最近催された地球環境東京会議でも、森林問題が大きくとりあげられ、特に森林が炭酸問題が大きくとりあげられ、特に森林が炭酸が強調されたとのことであった。環境保全上が強調されたとのことであった。環境保全上が強調されたとのことであった。環境保全上が強調されたよって樹木の更新がうまく行われて、森林が活性化された状況にあることが必要でしょう。健全にして積極的な林業経営心要でしょう。健全にして積極的な林業経営は自利、利他、すべての面において善であり、このような有難い業はまことに稀なものと私は考えております。

が放棄されていますが。――実際は業として成り立たなくなって森林

と思っている。

に立って目先の経済的面からだけみたらそのはその速度が早い、林業を他産業と同じ視点って栄枯盛衰の法則が働く、特に近代の産業由井 存在するものには凡て時の流れに従

中、 なおと 大正八年長野県生まれ。 中計で復員、与志本合資会社へ。日本青年会中尉で復員、与志本合資会社へ。日本青年会など経て、現在㈱吉本・与志本林業線・ヨシなど経て、現在㈱吉本・与志本林業経営者協会・大日本山林会理事、長、日本林業経営者協会・大日本山林会理事、長、日本林業経営者協会・大日本山林会理事、

代表的なもので、要はその人の人生感にもかいと思っています。就中、林業の如きはそのとは目先の利益だけできめられるものではなの大小が価値基準となっているが、本来の業の大小なの路品経済の論理は現在における利益ようなこともあるかも知れません。

かわる問題です。

杭丸太の用途によりカラマツ全盛の時もあった大もわき、道が開けるのではないでしょうか。大もわき、道が開けるのではないでしょうか。大もわき、道が開けるのではないでしょうか。大もわき、道が開けるのではないでしょうか。大もわき、道が開けるのではないでしょうか。大もわき、道が開けるのではないでしょうか。

季刊

No. 31 1990年初春号



| | A SALL |
|--|--------------|
| <巻頭インタビュー> | |
| 21世紀は森林・林業の時代 | |
| 由井直人さんに聞く山林経営の哲学 | |
| 2000 30 | 2 |
| 森林保全に世界の英智を | |
| 森林リゾートの問題点③ | 8 |
| 主体性あるリゾート開発を | |
| 安達生恒さんにきく | |
| | 10 |
| 水源の村は松澤 | 譲 |
| <森と木のある生活>⑫ | 14 |
| 製炭と木炭の生んだ文化 市川 | 健夫 |
| ■研究会・日本の川を考える④ | 19 |
| 川と地域・田中茂/筏流から河川を | |
| 萩野敏雄 | |
| ■切り抜き森林・林政ジャーナル | 26 |
| ■会員の消息 | 28 |
| 井出孫六/本間義人 | |
| ■会員の出した本 | 28 |
| 人間にとって農業とは/林野入会権 | |
| にとって森林とは何か/黙している | のはも |
| う限界だ/日本の米 | |
| ■「森林利用と自然保護」 | |
| 提言プロジェクトの論議(3) | 30 |
| 経済学からみた森林の自然保護・爿 | 上 畠佳房 |
| /丹沢山脈の森林を訪ねて | |
| ■会員紹介 | |
| 大熊孝/加倉井弘/榛村純一/杉本 | 5一/隅 |
| 谷三喜男/高橋延清 | |
| | |

若葉の季節

東山魁夷

(1972年: 64.7cm×91.6cm)

すべての樹々の芽吹く時、 紙

日は明るく暮れようとする。 0

人は一人もいなくて、

白い馬が向うの岸辺を歩いている。

遠い国で見た風景 あるいは夢の中の。

> 目次題字 隅谷三喜男 森前しげを カット

れない。 当時はスギと匹敵する価格だった。 ツでしたし、 製鉄の工場の打ち込み丸太もカラマツでした。 齢からみればむしろスギより高かったかもし 有林では森林を生かしたリゾートを考えてい 森林の高度総合利用をはかりたい。 りして土地の有効利用をしているが、 これからも存続させなければならない。 は既に去った。併しカラマツ林業は、 なくなった。商品としてのカラマツ杭の時代 ッピングセンターにしたり、建物を建てた 吾社では最近、 丸の内の旧ビルの打ち込み丸太はカラマ それが、 千葉の埋め立て地にできた川崎 国道ぞいの木材置き場をシ 杭丸太としての用途は殆ど いや、林 八ケ岳社 一今後は いまも

ています。 る。 などできないか 林間スキー 11 ス ネイチャ

た。

れも経済林経営の上からは恵まれてはいない も使っていますし、 ば、天然カラマツに近い優れた材質になる。 体で長伐期でやってゆく方針。長伐期にすれ は大きく転換する時代にさしかかっている。 に生かした経営をしてゆきたい。 ○年伐期です。長野県境に近い群馬県と長野 本業の経営では極力主伐を押さえ、 それに岩手・新潟に社有林があります。いづ 祖先を通して天から預かったもので充分 用途も拡がる。現在、ソ連材は合板に ヨーロッパでは八〇~ いま世の中 間伐主

森林は

〔天与〕の社会資本だから――と

の意味で国民森林会議の趣旨に賛同して仲間 ことに魅力に乏しいものになってしまう。 う使命観の自覚がないといまの林業経営はま

そ

に立った勉強をするため、社員を八ケ岳の、 に加えていただいた。自然を学び、広い視野

「自然教室」にも参加させた。今後ともよろ

しくご指導いただきたい。

とデベロッパーと相談し ースクー ル

明日のいのちもわからない。

れが私の人生観です。 ない経営をしている限り生かされてゆく。 然の理を教えてくれます。自然の摂理に反し えば栄え、反すれば滅ぶ。 自然の存在である以上、天地自然の摂理に従 林業はまことに自





しかし、

人間が

保全に世界の英智を

果たすべき大きな日本の役割

両日、東京・新宿の住友ホールで開かれ、延べ五〇〇人を越える参加で、世界の森林を考 「熱帯林国際シンポジウム」(実行委員会主催・国民森林会議後援)は九月九・一〇日の 熱帯林の保全・再生をはかり地球の環境を守るために、何をするべきか-

を探ぐる

拶。ついで基調講演に入りました。 を代表して大石武一緑の地球防衛基金会長が挨 中村靖彦NHK解説員の司会で開幕。主催者

えました。以下、両日の議論を要約しますと――。

開会あいさつ

政治を動かす力を

しかし、人類発生はわずか一〇〇万年前後にし に地球上にあらわれ、この間進化をとげてきた。 の中でこそそれは可能だ。生物は五~六億年前 楽しい人生、生活を送っているが、適当な環境 唯一の生物が存在する地球でわれわれはいま

球を守っているが、いま大きな変化をきたそう かすぎない。大気、水、大地が循環し合って地 い行政、政治を動かす力の核になって貰いたい。 そこに我々のシンポジウムの意義がある、正し 要だ。しかし、日本政府にその理解は少ない。 る。世界の国々がこぞって守るための努力が必 ているが、今のまま進むと数十年後には消滅す いる。熱帯林は人類の繁栄に大きな影響を与え 歩きし始めている。森林の危機もここからきて たが、いまや科学技術は人間の手を離れて一人 もたらされている。科学技術が文明を支えてき としている。その原因が、人間の知恵によって

基調報告

生態系全体の考察が必要

基調講演はアジアの現地を知っているお二人

から四〇分づつ。

熱帯雨林の現状と問題点東南アジア・太平洋地域における

地域林業・担当上級職員)(タイ・FAOアジア太平洋(タイ・FAOアジア太平洋

を表帯林は世界にとって極めて重要な森林資源であり、子孫に大きな影響を与えるもの。熱帯であり、子孫に大きな影響を与えるもの。熱帯がはアジア太平洋の一○カ国に存し、面積は三林はアジア太平洋の一○カ国に存し、面積は三林はであり、子孫に大きな影響を与えるもの。熱帯がは世界にとって極めて重要な森林資源がある。

工一○万が大科のいわゆる有用樹種は、すでに五七○万が大が伐採された。東南アジアでの伐五七○万がになり、年率四・九%の伸びだった。五○○万がになり、年率四・九%の伸びだった。近に減少した。インドネシアでは一九八五年から逆に丸太の輸出を禁止している。いまはマレーシア丸太の輸出を禁止している。いまはマレーシアカ太の輸出を禁止している。東南アジアでの伐工二○万が、サワラク州に限定)で輸出量二十二〇万が、大の輸出を禁止している。

建設、宅地開発による、などである。 ●設、宅地開発による、などである。 ●設、宅地開発による。タイでは二○年間に一二○ のまま放置される。タイでは二○年間に一二○ のまま放置される。タイでは二○年間に一二○ からスマトラへの定住計画で、家族当り五 なの土地を与えるというもの④スズ鉱脈、ダム はの土地を与えるというもの④スズ鉱脈、ダム を設し、こ○○○万なにのぼる②農地への転 を対している。 をがしる。 をがし

熱帯林は炭素の貯蔵庫でありその破壊は、温

より重要になっている。スタープランを作成した。国際的な協力関係が球的枠組みが整いつつある。インドネシアもマるためのアクションプランを各国が承認し、地の中組みが整いつつある。インドネシアもマープランを作成した。国際的な協力関係がを増進させ、土壌の浸食は農地をも破壊す

必要がある。

から一五〇畑以内に住んでいることは注目する

熱帯林の再生のためには、①科学的な運営、 管理のもとでの伐採②森林活動は第一義的には 管理のもとでの伐採②森林活動は第一義的には 管理のもとでの伐採②森林活動は第一義的には 管理のもとでの伐採②森林活動は第一義的には を上活手段の提示⑥計画的な造林⑦都市、工業 を上活手段の提示⑥計画的な造林⑦都市、工業 を上活手段の提示⑥計画的な造林⑦都市、工業 を上活手段の提示⑥計画的な造体⑦がある。

マングローブ林の保全と開発

の接点にある。水、土、植物のバランスのうえ

植生の劣化が著しい。ていると言えよう。森林が森林以外に転換され、系の変化だけでなく地球物理の変化に立ち入っが、いまや地球規模の改変によって、単に生態が、いまや地球規模の改変によって、単に生態が、いまや地球規模の改変によって、単に生態が、いまや地球規模の改変によって、単に生態が、いまや地球規模の改変によって、単には、

ているものと思っているが、ジャングルはスマ日本人の感覚には熱帯林というと緑に覆われ

いが、その一方で、世界の人口の半数が沿岸域熱帯林の消失が人口爆発にあることは間違いなトラ、カリマンタンの一部にしか残っていない

るかが大事だ。とりわけマングローブは海と陸は、環境因子として全体の中でどう関連していが、生物資源全体を見なくてはならない。が、生物資源全体を見なくてはならない。 本業は木材の抽出が中心であるのと りょう かい 大事だ。とりわけマングローブは海と陸への関連を伴うが林業経営の枠組みでは (2)生態米の管理を伴うが林業経営の枠組みでは

判断していくことが大事だろう。とらに生態系修復のためには①生態系調査の上するが、地域社会(ローカ操作技術の作成②土木的技術の応用③バイテク操作技術の作成②土木的技術の応用③バイテク操を表術の作成②土木の技術の応用③バイテクルコミュニティ)、国家経済、国際社会の中では一個では一個では、国際社会の主義を表現の主義を表現を表現を表現を表現していることを知る必要がある。

現地からの報告

均衡ある伐採と回復を

イドも入って時間オーバーの報告者も──。 四人がそれぞれ三○分の持ち時間で報告。スラ 現地からの報告に、アジア・南米から招いた

アマゾンの森林生態系と林業開発

ジーン・C・L・デュボア が高いでのでは、 でマゾン地域は七〇〇万屋の広がりをもち、 にとんどが熱帯林だ。ブラジルだけでもヨーロッ はとんどが熱帯林だ。ブラジルだけでもヨーロッ はとんどが熱帯林だ。ブラジルだけでもヨーロッ はとんどが熱帯林だ。ブラジルを対でもヨーロッ はとんどが熱帯林だ。ブラジルを対でもヨーロッ はとんどが熱帯林だ。ブラジルを対でもヨーロッ はとんどが熱帯林だ。ブラジルを対してもあり、多様で豊かな生 いの半分を占める。乾燥地の高木林、湿地帯、 沿岸帯のほかサバンナもあり、多様で豊かな生 にある。が特徴。自然での再生は不 がの半分を占める。が特徴。自然での再生は不 がの半分を占める。が特徴。自然での再生は不 がの半分を占める。が特徴。自然での再生は不 がの半分を占める。

染症を治療するものもある。ている。植物の中にはマラリアを治したり、感やゴムなど輸出作物として、自然の形で伐採し住民にとって森林は大事で、ブラジルナッツ

になるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。となるだろう。

る危険性がある。遺伝子学的に種の保存を考慮れている。収入のため伐採せざるを得ない側面れている。収入のため伐採せざるを得ない側面はだと破壊につながる。例えばマホガニーは規模だと破壊につながる。例えばマホガニーは

採取方法は、保全を考慮している。 用で採取しているため減少している。伝統的なもある。一方、湿地帯ではワカバヤシの実を商しない択伐が行われ、植林もなされていない面

有効なものとなろう。

有効なものとなろう。

有効なものとなろう。

有効なものとなろう。

有効なものとなろう。

有効なものとなろう。

有効なものとなろう。

中国における森林の現状とその取り組み

劉永翔

(中国・在日中国大使館参事官) (中国・在日中国大使館参事官) (中国・在日中国大使館参事官)

中国の豊富な森林資源は、度重なる戦争や無

では緑化率が二〇%以上に達した。 では緑化率が二〇%以上に達した。 計画な開墾など多くの原因により、四〇年前に がにすぎなかった。一九五〇年代から、わが国 がにすぎなかった。一九五〇年代から、わが国 がに至るまで全国的規模で造林緑化を進めてきた。 この結果、一九八六年には全国の人工林は二六 億なに達した。また、一九八三年の統計では、 全国都市部の緑化率は一五・四%、三七の都市 では緑化率が二〇%以上に達した。

積の○・八%を占めている。

積の○・八%を占めている。

を対している。とれば国土面に表れと併せ代表的な自然保護区三三三カ所、世界年までに全国で、自然保護区三三三カ所、世界年までに全国で、自然保護区三三三カ所、世界のに影響力のある国家級自然保護区は三○カ所、世界の生態環境の改善に貢献するため、一九世界の生態環境の改善に貢献するため、一九世界の生態環境の改善に貢献するため、一九世界の生態環境の改善に貢献するため、一九世界の生態環境の改善に貢献するため、一九世界の生態環境の改善に貢献するため、一九

今後の目標としては、全国の森林占有率は現在の一二%から二○%へ、木材生産量は現在の五○○万㎡から一億㎡へ、森林蓄積量は一二九九○年に全国の都市緑化率を三○%に、一九九○年に全国の都市緑化率を三○%に、一人当りの公共緑地面積を三~五㎡に、二○○○人当りの公共緑地面積を三~五㎡に、二○○○大当りの公共緑地面積を三~五㎡に、二○○○大当りの公共緑地面積を三~五㎡に、二○○○大当りの公共緑地面積を三~五㎡に、二○○○大当りの公共緑地面積を三~五㎡に、全国の森林占有率は現までき、森林の消費量と樹木の成長のバランスをでき、森林の消費量と樹木の成長のバランスを表して、木材の需給関係も改善されよう。

発と問題点 レリ シ アの熱帯雨林 の

伐ることから全ての問題が起こってきている。 球的環境がかかっている。しかしそれは、木を 境も破壊する。サバ・サラワク州では一〇〇万 森林が消滅すれば多くの人が職をなくすし、環 気象の変化、温度の変化など熱帯林には、地 (マレーシア・森林調査官) マーチンK・K・ペン

因不明の死亡者の墓も多くある。 CA)からでている。日本製のトラクター、ト ず魚も獲れなくなり飢餓におち入っている。原 によって残った木も立ち枯れ、米の生産もでき ラックが通れる道路だ。森林の伐採で土壌浸食 道路の建設費用は日本の国際協力事業団(JI 住民が伐採に反対し、道路封鎖を行った。その 全に枯渇すると予測している。サラワクでは原 輸入している。マレー半島に原生林はなくなり ア、フィリピンではすでに消滅し、逆に木材を 後五~一〇年しかもたないだろう。インドネシ ワク州からいってる。マレーシアの熱帯林は今 が最大の熱帯林の輸入国で九○%がサバ・サラ つつあるのが実態だ。FAOは一九九五年に完 マレーシアは世界の半分の原木を供給、 日本

ている。日本の商社が現地の会社とからんでキ ックバックを香港に振込んでいる。日本企業は 堅木で良質の木材を日本は低価格で求めてい サラワク州では二四時間伐採活動が行われ

> 環境を守るためぜひ熱帯林を救ってほしい。 いる。やり方次第で仕事、雇用を維持できるし、 さらにイリアンジャラ、ブラジルに目を向けて 天然林以外から木材を手に入れることもできる。

フィリピンの熱帯雨林の現状と課題

マキシモ・カラオ

た。日本商社は現地の四七〇社に被害を与え、 フィリピンは過去八〇〇万mの原生林を失っ (フィリピン・ハリボン財団代表)

> 残っていない。 民族が追われ、サンゴ礁では二〇〇万人が離れ 四二〇億ドルの収益を上げた。このため四〇〇 万人の民族が追い出され、鉱山では高地に住む た。いま、フィリピンでは五%のサンゴ礁しか

必要であり、日本への期待は大きい。 の公開を行うことなど。市場開放や経済援助が 生産できること③技術の研究を行うこと④情報 生態系の破壊を禁止すること②住民が持続的に われわれは修復のため次の救済を求める。

正しい情報把握を

人がこれに依存している。

ネッ ショ

帯雨林の現状・問題点と各国の取組み」、午後は「熱帯林保全のためのわが国の役割り」 現地に応じた対策樹てよ

論が続きました。 のテーマで八人のパネラーを招いて討論。会場からの質問もでて時間いっぱい熱っぽい議 一日目は、木原啓吉千葉大学教授(会員)の司会でパネルデスカッション。午前中は「熱 パ デスカ

男国民森林会議会長がしめくくりの挨拶をおこない二日間の幕を閉じました。 その後、総括講演が神足勝浩国際協力事業団参与(会員)からあって、最後に隅谷三喜

パ ネ ・リス 1 0 発言

増田 美砂

視点から見ることがポイント。熱帯林の破壊は 把握することができる。森林を環境と原住民の 人と森林とのかかわりは、歩くことによって (筑波大学農林学系講師)

> 部の侵入による伐採にある。破壊されたところ プランテーション経営による無秩序な開墾、 るしかない。 は早生植栽木を植えているが、別の環境となる しかいない。生活と調和できる森林利用を考え にすぎない。森林再生の担い手は結局、原住民

域地域で違う。全体の情報を集めて共通認識を (質問に答えて) 熱帯林破壊のプロセスは地

5

の立場からとらえるべきだ。 らリゾートは見逃せない。森林問題は野生生物 先ず、日本の国土を守るべき。そういう意味か の保護に向けた再検討が必要だ。日本としては したが、以後も伐採している。国際的な視点で ンドネシアは一九八五年から原木の輸出を禁止 充分で、その保護は緊急課題となっている。イ おいそれとは復興できない。熱帯林の研究も不 熱帯林は永い時代かかって形成されたもので、 (京都大学霊鳥類研究所助手)

剛

囲など四○%が傷むことや焼畑による土地の荒 大面積皆伐。その二は劣化で、一本の伐採で周 の放牧やダム建設での八万㎞の水没などに伴う 熱帯林はその消え方の中味が問題だろう。そ 一は全くなくなってしまう場合で、ブラジル 毎日新聞社・編集委員)

抑制に努力することなどだ。 事業や管理・経営に対して援助すること④人口 して生産国に還元すること③ODAによる植林 ②輸入材に三~五%の課徴金をかけ育林資金と 再生に向けては①熱帯林の価値を高めること

> いる。 を聞いて決めたらいいのか、ジレンマを持って 不足で農耕に支障がでている。ジャッカルはい 出、ニジェール川の水位が上がりサヘルでは水 る植生の回復を図りたいと考えるが、誰の意見 としての有用樹の植栽には興味を示す。幅のあ るが人は住めなくなっている。住民は換金植物 ギニアの熱帯林が伐採されたため雨量に変化が サヘルでは砂漠化で生活が困難になっている。 (サヘルの会・農業技術指導員)

鈴木 准

ずさ②劣悪土壌のところでの植栽③植っ放しで 成功する。 手入れをしない、だった。ここらを改善すれば なかった。失敗の原因は①苗木の取り扱いのま 栽したが、今年二月の調査で二割しか残ってい 昨年八~九月フタバガキ科の苗木を三万本植 雨林研究プロジェクトチームリーダー) 、林野庁監査官・前インドネシア熱帯隆

入で二年位経ると林道は使えなくなる。荒地に ると人が入り焼畑で荒れるというが、植生の侵 ない。インドネシアのⅠTCⅠでは五○数万㎞ ブラジルのサンパウロではユーカリで成功した で覆われてから次のステップに進むことになる。 植えるのはユーカリ、 のエリアで見事な森林となっている。林道を作 適切な管理をすれば伐採で山が荒れることは 松類、アカシア類で、緑

> 岩井がユーカリを植林するという。熱帯林は温 用するため森林破壊につながっている。パプァ ラジルではカラジャス鉱山など精錬に木炭を使 ニューギニアやニューブリテンなどでJICA 軍隊まで出動し原住民をぎゃく殺している。ブ 壊が起こっている。西パプア、東チモールでは わす。根本的に問い直す必要がある。 行われており、その増額はむしろ地球環境をこ は何の意味も持たない。ODAは日本の見方で 帯林と違い、植林は難しい。現地の人には植林 が後押しし、試験的に造林。ブラジルでは日商 インドネシアでは集団移住計画の中で森林破 (横浜市立大学教授)

がないのは問題だし、ODAのコンサルタント 援助にかかわる総合研究センターが必要だ。 に環境の専門家がいないのは問題だろう。開発 (質問に答えて) 日本に環境アセスメント法

久和

えるべき。熱帯林地域は途上国にあるが、その 緊急課題であり、広範な層による具体的な政策 特に、資金面でどう合意をうるかがポイント。 類共通の遺産としての理念を前面に出しながら てはいけない。ODAだけでは解決しない。人 る。北米材、温帯林材の輸入もからめ考えなく と社会、経済、農業開発問題へとつながってい 管理責任はその国にある。生活基盤、外貨獲得 熱帯林は地球生態系の重要な要素としてとら (環境庁計画調査室長)

鷲見

一夫

提言が必要だ。

るが米、加、ソ連との議論の場が欲しい。 (質問に答え)関税構造の見直しが必要にな

熱帯林の特質は、 多様性、複雑な生態系、無 、滋貿県琵琶湖研究所所長)

吉良

竜夫

る。バラバラ行政による援助では無理だ。 ろう。人口抑制と健全な工業の発展ともかかわ もたせながら利用するゾーンの設定は可能だ。 熱帯林の研究は重要だ。保護区と本来の機能を 数の種を保存、代替できないなどの点にある。 森林と農地の生産力を併行して高める必要があ (質問に答えて)情報センターが必要だ。

総括講 演

まず保存を、ついで営林を

立つことを確信した。 での議論を聞いて日本が必ず、国際化の先頭に 一九六○年から海外を回ってきたが、これま

種の保存、土壌や水の保持の役割をもつ熱帯

林の保全に最も力を入れるべきだ。残っている では、熱帯林は年間一一三〇万粒減少している。 ちにやるべき問題だ。一九八二年の公表の資料 木を住民含めていかに保残するかが焦点で、直 (国際協力事業団参与) 神足 勝治

いますが、批判の声をしっかり見定めなければ 要に応じて協力する」という姿勢がこめられて な搾取ではないか、という批判もくり返されま

した。国際協力事業団の名称には「相手国の必

として嬉しく存じます。

地球環境破壊が問題化していますが、その一

ジウムが盛大に行なわれたことを出催者の一人

二日間に延べ四五〇人の方が参加し、

シンポ

援助から協力へ

が大きな話題となりました。 いう表現になっていますが、実質的には間接的 いています。シンポジウムでもODAとの関係 ODAは相手国の主体性を尊重して、援助と

的・社会的な問題、とり

ます。この問題は、経済

閉幕

あいさつ

つに熱帯林の問題があり

わけ貧困と深刻に結びつ

ならないと思います。 るというのに対して、NGOの場合には相手の しばしば国と国、政府と政府の間で話し合われ もう一つNGOの活動です。開発というのが

> 判されるのに対し民衆の中に入り民衆と共に考 民衆との間の交流ということが基本的に重要だ えるNGOの活動は日本ではまだ不十分です。 と思うのです。日本の国際協力がいろいろと批 欧米に学ぶ点が多いの

国民森林会議会長 谷 三喜男

市民運動が国内で政

です。

ることは大切ですが、 として考えていくことだろうと思います。 先ほどの決議(前号既報)の中で次のステップ 衆と共にこのことを考えることが必要でしょう。 東南アジアの中に入り民 府に対し批判、発言す



の造林では到底追いつかない。 それに対し、JICAが援助する年間一五〇粒

伐って植える温帯林施業に比べ、熱帯林は技術 なセンスでは出来ない。森林は再生資源である。 の原因がある。しかし、その回復には先進国的 い。各国が営林に向けた組織機構をしっかりも の一ケタ台であり、これは致命的な問題ではな 的にも根本的に違う。日本の輸入は全体伐採量 つことが大事だ。 熱帯林の減少は、①人口増②貧困③焼畑にそ

行う。そのためには自然の中に溶け込むことが 議が必要だろう③環境破壊にならない伐り方を が考えること。輸出国の余剰率について国間協 実態に関する情報を正しく把握する②国民全体 今後の保全に向けた対策として、①熱帯林の などを示したい。

主体性あるリゾート開発を

― チグハグを整理する時期 -

一 リゾートプームですが……。

す。とくに子供たちにとっては。とは人間本来の生活を取り戻すためいいことでら離れた大都会の生活の中で、自然に親しむこ安達 リゾート自体はいいことです。自然か

て、町もやっと規制に乗り出した。いって、川端康成の『雪国』のイメージで売っいって、川端康成の『雪国』のイメージで売っ主義でやられた。湯沢なんかも、外部資本がは主義でやられた。湯沢なんかも、外部資本がは

ではないかと思いますよ。 を本が乗り出し、地元でも資本を引っ張って でれば良いという考えはおかしい。リゾートが、 くれば良いという考えはおかしい。リゾートが、 という日本独特のもので、私は自然を壊す のではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、 地元が細々と確実にやっている。リゾートが、 ものではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、 ではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、 ではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、 ではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、 ではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、 ではないかと思いますよ。ヨーロッパでは、

すよ。日本ばかりか地球の環境を守るためにも「むら」の側から見ると森林は大事なもので

ます。 大事だという認識がでてきた。 大事だという認識がでてきた。 大事だという認識がでてきた。 大事だという認識がでてきた。 大事だという認識がでできた。 大事だという認識がでできた。

里山は、リゾート利用がかかり、片っ端から道路・建物を作っている。山を保全して、その中で静かに自然に接するヨーロッパ型のリゾートにならないものか、を考えさせられる。リゾートを高度成長期の工場誘致のように考えており、リゾートと地元も資本も利用者も哲学がない。 世山は、リゾート利用がかかり、片っ端から 単山は、リゾート利用がかかり、片っ端から

くり、村民会議を開いて意見を出し合った。出んで良し、訪れて良し」というスローガンをつたちは、農作業などしていない。ある村で「住という試みがありますが、その農村の子供や孫という試みがありますが、その農村の子供や孫安達 都市との交流で「農業体験」をしよう

てくる意見は、「訪れて良し」のものばかり。てくる意見は、「訪れて良し」の方が先にあるのに──。故郷「住んで良し」の方が先にあるのに──。故郷のものではない。地元の産品で「○○そば」とのものではない。

り、フランス人の奥さんと、一○歳ぐらいの子カンスを過ごしにきた。大学の官舎の一隅を借めから、昔の山村の生活など聞かない。島根大学にいたころ、ドイツの新聞記者がバースを過ごしにきた。大学の官舎の一隅を借かい。 山に行ってまでTVの日利用者もおかしい。山に行ってまでTVの日

恒



究所を主宰。会員。
で、京都大学人文科学学卒、京都大学教授を歴任、・島根大学教授を歴任、・島根大学教授を歴任、・島根大学教授を歴任、・の一年退官。社会農学研究所助教授、愛媛大学が完新した。

供を連れてきていたが、昼間は車で見学をし、_____

ドイソの農村を歩いたが、車てキャビングカいって、夫婦で夜の町に出て楽しむ。らせる。「一食ぐらい食べなくても大丈夫」と子供が眠たくなるとスナック菓子など与えて眠

でいるようですが。 一一すると、日本人のライフスタイルが問われれ無くても良い。一○日ぐらい過ごすと別の所れ無くても良い。一○日ぐらい過ごすと別の所れ無くても良い。一○日ぐらい過ごすと別の所れ無くても良い。一○日ぐらい過ごすと別の所れ無くても良い。一○日ぐらい過ごすと別の所に無くても良い。一○日ぐらい過ごすと別の所にしたが、中にキャビングカーをつけて、少し森のある村などに止めて、何ーをつけて、少し森のある村などに止めて、何ーをつけて、少し森の場材を歩いたが、車にキャビングカーでいるようですが。

桑名まで迎えに行き、イセエビ・タイ・ハマグ 禁の暦をもって、年一回縄張りとしている地方 がる。人口が一五〇〇万人は動いた」といって 「お伊勢参りに四〇〇万人は動いた」といって がる。人口が一五〇〇万人の頃です。伊勢神宮 の外宮は庶民の神様ですが、その神主の下の御 の外宮は庶民の神様ですが、といって 書で、本居宣長は、

りの御馳走ぜめだったそうだ。記録をみると岩野からアイヌまで行っている。これは、今の交近代まであった湯治は、隣村の温泉場に米を近代まであった湯治は、隣村の温泉場に米を担いで行き、自炊をしながら疲れを癒した。不好の夫婦などが「子授かり」にも湯治をした。するかでしょう。最近は、旅行社の旗を立てて、団体で旅行というスタイルから、家族で三々五々旅をすることも多くなって、日本人のレジャ々旅をすることも多くなって、日本人のレジャー感覚も変わりつつあるようですが。

変わるのなら、若い人たちの良質のものが、「効率のリゾートスタイル」を変えるでしょう。「効率のリゾートスタイル」を変えるでしょう。だいし、主人とおかみさんの人柄で人を呼ぶ。ないし、主人とおかみさんの人柄で人を呼ぶ。クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、クトーンやギターがある。主人が演奏したり、で一週間もいる人はいないようでね。転々とすで一週間もいる人はいないようでね。転々とすで一週間もいる人はいないようでね。転々とする。ペンションのネットワークも必要でしょう。る。ペンションのネットワークも必要でしょう。私のような年寄りがペンションいくと肩身が狭私のようですよ。

なように」というのですが、三時間の講演に二ありました。主催者側は「なんでも食べて好きいつか阿蘇で講演に行き、ゆっくりする暇が

う、と思いましたね。
う、と思いましたね。
う、と思いましたね。
う、と思いましたね。
う、と思いましたね。
ら、と思いましたね。
ら、と思いましたね。
ら、と思いましたね。
ら、と思いましたね。

せん。上半身(イベント、リゾート)だけ華や ○年、そろそろちぐはぐを正さなくてはいけま は、いつか、つんのめるのではないかと心配だ。 いで、下半身(農林業)は変わらない。これで など小さい単位に目が向き、「上向き」は系統 地元の農協に文句がくる。 マスコミがそれを紹介したとたん、経済連から 少農薬でハザカケした米を「故郷便」にいれた。 老人ばかりが残り、耕地整理も出来ない田圃で、 の上ばかり気にしている。新潟県の過疎の村で 「後ろ向き」になっている。 安達 農山村は「内向き」で「上向き」、全体として というと、見込みはありますか リゾートやイベントがやられだして一 「内向き」は集落

ですね。

農村の自発性は「上向き」指向のなかで潰さ

の対している。これは、四○年代になって、管理の
は、リゾート問題も、地元の自発性をどう生か
は、四○年代になって、管理の



も全部とりこわされ、やがて湖底に沈む= かつての徳山村戸入地区。いまは学校も民家 九七九・五 撮影

でいた。ダムに強く反対する勢いがくずれかか

区長さん、分校の先生たち、ダム反対を主張

人たち、ダム賛成の人たち、村にはいろんな意 ってきていた。補償条件を有利にしようとする

消え た 村

年ほど前の五月で、統一地方選挙の村会議員選 月末で廃村になり、土地は、隣りの藤橋村に吸 斐川の源流に、徳山村があった。一九八八年三 私に大きなショックを与えた。 をはこんで、廃村までの姿を見つづけてきた。 挙がおわったばかりだった。以来、毎年村に足 収された。多目的ダムの建設で、全村が水没し た人たちの相談会に参加した。そこでの話は、 てしまうのが、廃村の理由であった。 はじめて村を訪ねた夜、村の一集落の主だっ 徳山村に、私がはじめて入ったのは、その十 木曽三川の一つで、いちばん西側を流れる揖

松

澤

(ジャーナリスト)

見がうずまきはじめていた。

った。 運動の足をのぼす。そんな、まさに〝戦い〟だ る。反対派は夜闇に乗じて橋の下の川を渡って さないよう、入口の橋に夜中まで見張りを立て 反対の候補者が隣りの集落へ運動の足をのば

ちが、遠く関東からまでやってきた。 なった婦人たちのところには、いずれもらうで あろう補償金を目あてに、結婚を申し込む男た が渡ったというウワサも流れた。大戦で夫を失 だちに突き返えし、反対の姿勢を示していた。 を国が提示したのに対して、話にならないとた 一方で、起業者側から村会議員に、ひそかに金 当時村は、水没移住する人たちの補償の基準

の田植えをするかどうかが問題になっていた。 年はダメだナ」。不安なささやきの中で、わずか はいない。「夏には出ていくんじゃろか」「来 うになっているのか、村人たちは詳しく知って らである。だが、ダムの交渉、手続きがどのよ この村に一生を托した年配の人たちは、なおさ だれも喜んで村を捨てようとは思っていない。 そんなイライラした年がつづく。第二次の補

いく。

賛成の組織ができる。次第に条件交渉に傾いて配の手紙が来る。反対同盟は割れて、条件づき配の手紙が来る。反対同盟は割れて、条件づきと村八分になるよ」。町に出ている子供から、心償基準が示される。「いつまでも反対している

村に住んでる人? 補償の対象になるんですね」付回目かに村を訪ねたとき、私も未亡人さがった。「人住まいの人は事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。山はえま、同じような山の村で仕事している。「私も美」という。

が消えている。

第三次の補償基準が示されると、妥結の空気が強まり、やがて各戸ごとの調印に入る。そのといった看板が目立ちはじめた。銀行員が、なといった看板が目立ちはじめた。銀行員が、なといった看板が目立ちはじめた。銀行員が、なる。

気の中で同じ宿に泊まった。

男は本心をあらわした。その夜は気まずい雰囲

スも、もうない。とり残された一軒に泊めてもどの家は空家になっていた。通っていた村営バー人。先生は、村がなくなる前に、と遺跡、文一人。先生は、村がなくなる前に、と遺跡、文本をたずねた。分校は六年生の女児一人、先生落をたずねた。分校は六年生の女児一人、先生落をには村がなくなるという秋、一番奥の集

しそうに話してくれた。もあれば暮らせますけんどな」。奥さんは、さびを指さして)の酒代、ぜんぶあわせて月三万円らった。「ここにいれば、電気代とこの人(夫

ている。奥美濃の山から、水が引くように、人谷村も、十年余り前、ダムのために廃村になった山村から山一つ越えた日本海側にあった西屋を建てて、雪が消えるとやってきて、畑を作屋を建てて、雪が消えるとやってきて、畑を作

多目的ダム

がムで全村がなくなるのは、極端な例ではある。が、廃村にならないまでも、水源の村は同る。が、廃村にならないまでも、水源の村は同る。が、廃村にならないまでも、水源の村は同い下は、いま建設中か補償交渉中のところ。五以下は、いま建設中か補償交渉中のところ。五以下は、いま建設中か補償交渉中のところ。五以下は、いま建設中が補償交渉中のところ。五以下は、いま建設中が補償交渉中のところ。五以下は、いま建設中が補償交渉中のところ。五次りゆきでいけば、二〇〇〇年には、六千人いた村の人口は千人を割るだろうと、九州経済調査協会は予測している。

ブム水没実態の一例

| | | | | | ダ | A | 水 | 没 | 実 態 | Ø | _ | 例 | | | | |
|----|-----|-----|------|-------|--------|--------|--------|--------|-----------|------|----|-----|----|-----|--------------------|--|
| 4" | 4 | 名 | 完成 | 水没世帯数 | 7. | k 没 | 土均 | 也 (h | a) | 補償総額 | 関 | 係 | 町 | 村 | 85年/60年 村 人口減少率 | |
| | | 711 | 年 | 数 | 田 | 畑 | 山林 | 宅地 | 総計 | (億円) | | ,,, | | ., | (%) | |
| 金 | | 山 | 1967 | 300 | | 607. 0 | 405. 0 | | 1, 116. 0 | 34 | 北海 | 道南 | 富良 | 野町 | 60. 6 | |
| 湯 | | 田 | 1965 | 622 | 64. 4 | 58. 4 | 243, 5 | 33. 0 | 551.8 | 71 | 岩弓 | 阜県 | 湯 | 田町 | 60. 7 | |
| 下 | 久 | 保 | 1967 | 349 | 5. 8 | 117. 0 | 234. 8 | 12. 6 | 386. 0 | 50 | 群具 | 5 県 | 万: | 場町 | 44. 3 | |
| 真 | 名 | JII | 1977 | 316 | 30.0 | 64. 0 | 183. 0 | 11.6 | 292. 6 | 53 | 福ま | ‡ 県 | 西: | 谷 村 | 廃村 | |
| 早 | 明 | 浦 | 1973 | 352 | 21. 0 | 120.0 | 620.0 | 12. 0 | 789. 5 | 125 | 高失 | ロ 県 | 大 | 川村 | 81. 7 | |
| 下 | 在•村 | 公原 | 1972 | 550 | 51.0 | 29. 0 | 177. 5 | 17. 1 | 287. 6 | 101 | 大分 | 県「 | 中津 | 江村 | 69. 9 | |
| 大 | | 滝 | | 399 | 6. 3 | 1. 7 | 212. 0 | 15. 0 | 240. 0 | | 奈島 | 見県 | Л. | 上村 | 56. 9 | |
| 苫 | | 田 | | 470 | 155. 0 | | 110. 0 | 25. 0° | 290. 0 | | 岡山 | 山県 | 奥 | 津 村 | 40. 9 | |
| 川 | 辺 | Ш | | 456 | 25. 0 | 39. 0 | 293. 0 | | 357. 0 | | 熊才 | 早 県 | 五 | 木村 | 62. 7 | |

料) 「ダム総覧」1976, 1980年版による。

いま日本のダムは、昔からの農業用貯水池も

他の山村よりずっと人口減少率は高い。ダムの

水没移住という衝撃的な事態が加わって、その

奥にとり残される山村もまた、一層の衰退にお

が村を減ぼしかけている。水源山村も同じだが

期を通じて若者を都市労働力にとられ、過疎化

のせいだけではない。山村はどこも、高度成長上、少ないところでも四割以上の減少だ。ダム

に作られた。 二千四百ほどある。そのうち千二百余りは戦後含めて、堤の高さが十五メートル以上のものが

れている。
が、法律の制定によって、急速にふえてきた。が、法律の制定によって、急速にふえてきた。が、法律の制定によって、急速にふえてきた。力発電と、それぞれの目的の専用ダムだけでな力発電と、決水調節、農業用水、都市用水、水戦後は、洪水調節、農業用水、都市用水、水

- ジを山村に与える。 量も大きくならざるを得ない。より大きいダメ 多目的ダムは目的を複合させるだけに、貯水

日本ダム協会に資料がそろっている三百十二日本ダム協会に資料がそろっている三百十二日本ダム協会に資料が表も多くて二万六千四円三千へクタール、田畑、宅地などをあわせると約四万三千へクタールになる。これは全ダムの湛水面積の四分の一にあたるというから、単純に水面積の四分の一にあたるというから、単純に水面積の四分の一にあたるというから、単純に水面積の四分の一にあたるというから、単純によるとでは、ことになる。

を作ってきた。

「高度成長期を通じて、工業や都市集積を支えを作ってきた。

「ないだろう。その大部分は川の上流、水源がえないだろう。その大部分は川の上流、水源がえないだろう。その大部分は川の上流、水源がえないだろう。その大部分は川の上流、水源が高度成長期を通じて、工業や都市集積を支え

何もしてくれない、という思いにかられるのも、いる山村が、これまでの貢献に対して、都市は林業の低迷と過疎で、崩壊の一途をたどって

当然の心情であろう。

蜂の巣城の教訓

若いころ目を病って見えなくなった彼女は、それから、近所の子供のお守りをして暮らしてきた。生まれ育ったところだから、家の中も村きた。生まれ育ったところだから、家の中も村けたら、頭に刻みこんだ地図はなくなってしまう。子守もできない。近所を歩くこともできないと悩んだ彼女は、移住をひかえた日、自殺したの事実にぶつかって、たいへんなショックをうけた。———

になった人もいた。もあいまいな補償で追い立てられ、行方知れず分が通用した。移住を強いられた住民は、根拠分が通用した。移住を強いられた住民は、根拠のダム建設は、お国のためという大義名

その概要さえも知らない人が多くなった。詳しいまはもう、蜂の巣城も歴史の中に埋没して、いまはもう、蜂の巣城も歴史の中に埋没して、肝筌(しもうけ)ダム建設をめぐる蜂の巣城

たい。 くはとても記せないが、その要点をまとめてみ

両ダムが計画された。中津江村と熊本県小国町の境に、下筌、松原の快に、筑後川の治水事業として、上流、大分県後川がはんらんし、大水害がおこった。これを後川がはんらんし、大水害がおこった。これを一九五三年六月、北部九州を襲った豪雨で筑

当局の不備を突いた。
当局の不備を突いた。
となやり方に反発した水没地の山林経営者室原
をなやり方に反発した水没地の山林経営者室原
をなやり方に反発した水没地の山林経営者室原

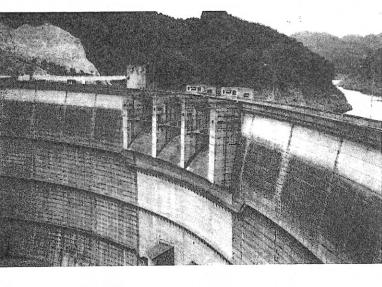
ちょうど筑後では、三井三池炭鉱の大量解雇ちょうど筑後では、三井三池炭鉱の大量解雇ながらも、法を楯にした抵抗に、国もほんろうされた。

よって行われている。作った。個人補償は以後、現在までこの基準に統一的な公共用地の取得に伴う損失補償基準を充したがい経験から、国は土地収用法を改め、

おこす。住みなれた地を捨て、職業も捨てて新害まで埋めるものではない。そこがまた問題を償が基本精神で、追い出される住民の精神的損だが、この基準は、あくまで財産に対する補

かしくする状況も招いた。め周辺の地価を引きあげ、山林経営を一層むずない部分を、財産補償の形で折り込む。このたしい土地に移る、単なる財産補償では埋められ

らいに評価されていた山林に、三十万、四十万たとえば、十アールあたりせいぜい十万円く



大きなアーチが山峡をさえぎる下筌ダム=

が、土地問題の山地版を生むもとになる。円の補償が示される。起業者側にしてみれば、

バクチに使いはたす例も跡を絶たない。かすめ取られ、だまし取られ、あるいは遊興、かすめ取られ、だまし取られ、あるいは遊興、一方、補償を受ける側は、これまで見たこと

残された村は

ない。

があてしまう例も多い。村の再建は容易では中心に水没させる。村の行政の中心地をすっぽった。ダムはおおむね川沿いの住居地や田畑をった。ダムはおおむな川沿いの住居地や田畑をもう一つの問題は、残った山村の生きる途だ

七三年、政府は村の再建のために水源地域対ものである。現在六十六ダムがその指定をうけものである。現在六十六ダムがその指定をうけものである。現在六十六ダムがその指定をうけている。

いま八方ふさがりの山村にとって、大きなダをと感ずるのは、私だけではあるまい。を感ずるのは、私だけではあるまい。ないないながであるが、いまも十分をと感ずるのは、私だけではあるまい。と感ずるのは、私だけではあるまい。というの対策が少しずつ前進してきた出発点とれらの対策が少しずつ前進してきた出発点

湖を想いうかべる気にもなろう。当然かも知れない。中禅寺湖や十和田湖、摩周ム湖の出現は、観光立村への夢を抱かせるのも

出す。
出す。
出す。
は性格が違う。洪水調節のためには、出水期のは性格が違う。洪水調節のためには、出水期のは性格が違う。洪水調節のためには、出水期のは性格が違う。洪水調節のためには、出水期のはが、ダムで作られた人造湖は、自然の湖とだが、ダムで作られた人造湖は、自然の湖と出す。

される。
かうことが、如何にむずかしいかを思い知らが発生して水質を悪くする。自然をコントローが発生して水質を悪くする。自然をコントロー砂が流れ込み、湖を埋める。溜り水にはアオコ川を堰き止めて作った湖だから、上流から土

大部分である。でにぎわっても、再びもとの過疎にもどる例がらない。数年は珍らしさも手伝って、訪れる人特殊なケースを除けば、観光資源には全くな

下流のための治水、利水として作られるダムで流のための治水、利水として作られるが、完全に分かれる。そこが理解られるところが、完全に分かれる。そこが理解は、結局、利益を受けるところと、犠牲を強いいくことになる。

(つづく)

森と木のある生活⑫

製炭と木炭の生んだ文化

人類の文化と木炭

「火の発見は、人類の歴史のなかで最大の革命である」といわれている。人類が生活様式をからである。旧石器人は四回にわたる氷期を経験し、その度ごとに文化を発展させてきた。最験し、その度ごとに文化を発展させてきた。最終し、その度ごとに文化を発展させてきた。最終し、その度ごとに文化を発展させてきた。最終し、その度ごとに文化を発展させてきた。最終し、その文化をより大きく発展させた。に火を使い、その文化をより大きく発展させた。に火を使い、その文化をより大きく発展させた。による調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる調理や採暖、野生動物に対する防衛などによる場合により、大気の経典を表した。

あった。静岡市の登呂遺跡など弥生時代の水田との稲作を可能にした生産手段が、鉄製農具でたる。わが国では縄文時代から弥生時代になり、える。わが国では縄文時代から弥生時代になり、える。わが国では縄文時代から新石器時代になると、さらに旧石器時代から新石器時代になると、

まではないである。 『古事記』に素戋鳴尊が八岐大蛇であった当雲王国を象徴する存在が、八岐大蛇であった出雲王国を象徴する存在が、八岐大蛇を退治して と意味している。古代タタラ製鉄が盛んであった出雲王国を象徴する存在が、八岐大蛇を退治して を意味している。古代タタラ製鉄が盛んであった出雲王国を象徴する存在が、八岐大蛇を退治して を意味している。古代タタラ製鉄が盛んであった出雲王国を象徴する存在が、八岐大蛇を退治して

から、三○○○年前までの絶対年代の測定がで戦後炭化した物質に含まれる放射性同位原素でに二○○○年前に存在していたのである。を使っていかに高熱を得るかの技術文化が、すタタラ製鉄を支える燃料は木炭であり、木炭

(東京学芸大学教授) (東京学芸大学教授)

市

用した文化の一つであるといえよう。きるようになった。これも木炭のもつ属性を利

タタラ製鉄と木炭

一七三五年イギリスにおいて、コークスによる製鉄が始まるまで、世界の製鉄はすべて木炭を燃料としていた。産業革命の直前、世界第一を燃料としていた。産業革命の直前、世界第一の鉄生産国はロシア帝国であった。当時後進国で近代的製鉄法が始められるまで、すべての鉄で近代的製鉄法が始められるまで、すべての鉄で近代的製鉄法が始められるまで、すべての鉄で近代的製鉄によって生産されていた。踏鞴ははタタラ製鉄によって生産されていた。踏鞴ははタタラ製鉄によって生産されていた。踏鞴ははタタラ製鉄によって生産されていた。踏鞴ははタタラ製鉄によって生産されていた。踏鞴ははタタラ製鉄によって生産されていた。なお、タタラは鑪炉、高殿とも書かれていた。なお、タタラは鑪炉、高殿とも書かれていた。なお、タタラは鑪炉、高殿とも書かれていた。なお、タタラは塩炉、高殿とも書かれていた。なお、タタラは塩炉、高殿とも書かれていたが、のちには製鉄炉を意味するようになった。なお、タタラは塩炉、高殿とも書かれていた。

郡吉田村には、四万町歩の大山林地主、田部家「低炉」で、粘土で築かれている。島根県飯石ートル、幅七〇センチ、高さ一メートルほどのタタラの製鉄炉は小規模なもので、長さ三メ

ことができる。まで使用されていたタタラ製鉄の状況をしのぶの所有する菅谷高殿が残されており、大正時代

ラ鉄である。

になるとナラ炭・クヌギ炭などが用いた。 で判断したが、第一日目は朝日の昇る色、二日 目は日中の色、三日目は夕日の紫色というよう で判断したが、第一日目は朝日の昇る色、二日 に、太陽の色を目安に温度の調整が行なわれた。 好内の温度管理であった。炉内の温度は炎の色 で判断したが、第一日目は朝日の昇る色、二日 に、太陽の色を目安に温度の調整が行なわれた。 以入れ当初温度をあげるため松炭を使い、後半 たてなるとナラ炭・クヌギ炭などが用いた。

立地していたことを知りうる。
○町歩の山林を使うことになる。そこで高殿は
○町歩の山林を使うことになる。そこで高殿は
安い木炭資源を求めて移動していった。「砂鉄
安い木炭資源を求めて移動していった。「砂鉄
安い木炭資源を求めて移動していった。「砂鉄
っている。一つの高殿で一年間に三○代吹くと一
ている。一つの高殿で一年間に三○代吹くと一

したものでなく、燃やすと若干煙が出るものがクヌギなどの広葉樹で焼かれたが、完全に炭化なおタタラ炭は前述のように赤松やコナラ・

去り、鋼鉄にされた。これを割鉄というが、長冶屋に運ばれ、再び木炭で焼かれて不純物を取りのようで精錬された鉧は、破砕された後、鍛よいとされている。

さ二尺五寸、幅一寸三分、厚さ三分の鋼材にし

て商品化された。

に市場へ出荷できたからである。 に市場へ出荷できたからである。

に用いられていた。しかし鉄鋼の輸入と新しいトンで、主として和釘・刀剣・農具などの原料明治初年わが国におけるタタラ製鉄量は一万

のみ営まれている。

多角的な木炭消費

不炭はそのほとんどが炭素のため、無煙の良本炭はなどの精錬には、莫大な木炭が使われたをしてタタラ炭が大量に利用されたことは前述としてタタラ炭が大量に利用されたことは前述としてが、金・銀・銅・錫・鉛などの精錬・鍛造・圧延などにも、木炭が用いられてきた。奈良東大寺の大仏鋳造や、別子銅山・生野銀山・佐東大寺の大仏鋳造や、別子銅山・生野銀山・佐藤は、東大な木炭が使われたのである。

消えて、二〇年近くの歳月が経った。・大正一二年選定)が、小学校の音楽教材から文部省唱歌の名曲「村の鍛冶屋」(一九二三

高度成長期であった。農業の機械化が進むなか急速に姿を消したのは、一九六〇年代の経済の全国での農山村にもあった野(農)鍛冶が、

り、野鍛冶の存在価値が薄れている。場で大量生産されたものが使用されるようにな風土と密接な関係のある鍬・鎌に至るまで、工低下した。そのうえ、地域の地形や土壌などので、鍬・鎌に代表される農具の役割が相対的に

急傾斜の秩父山池では唐鍬が使われている。急傾斜の秩父山池では唐鍬が使われている。これに対し、関東ローム層におおわれたまる。これに対し、関東ローム層におおわれた武蔵野台地では、平鍬がもっぱら用いられている。この鍬は柄と刃床との角度が大きく、柄もる。この鍬は柄と刃床との角度が大きく、柄もる。この鍬は柄と刃床との角度が大きく、柄も高。この鍬は柄と刃床との角度が鋭角で、柄が短く、この鍬は柄と刃床との角度が鋭角で、柄が短く、たの鍬は柄と刃床との角度が鋭角で、柄が短く、たの鍬は柄と刃床との角度が鋭角で、柄が短く、カをいれている。

日本の農具や刀剣が質的にきわめてすぐれて日本の農具や刀剣が質的にきわめて高かったからである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。現在野鍛冶のほとんどが、コークスをである。

このほか工業用としては、清酒・味噌などの

公家や大名など日本の上流階級では、長い間 は素焼きの焜炉で炭火で焼かないと、本来の味 は素焼きの焜炉で炭火で焼かないと、力が国の 炊飯がなされていた。すき焼きなど、わが国の 炊飯がなされていた。すき焼きなど、わが国の 炊飯がなされていた。すき焼きなど、わが国の 炊飯がなされていた。すき焼きなど、わが国の 炊飯がなされていた。蔵造りで有名な福 は素焼きの焜炉で炭火で焼かないと、本来の味

で焼く本造りが歓迎されている。 煎餅・あられなど、日本の伝統的米菓は炭火

ではほとんど見られなくなった。 切り炬燵に火保ちをよくするには堅炭を使の下町情緒があふれる風景であったが、いまり炬燵も、戦後電気炬燵の普及で減っている。 暖まり、なかなか快的である。しかし、この切暖まり、なかなか快的である。しかし、この切暖がに木炭を入れて、手焙りするさまは、東クが、焼いた籾殻と囲炉裏や竈の残り火や消し

木炭は防腐剤・濾過剤としても使われてきた。木炭は防腐剤・濾過剤としても使われてきた。また鉄道枕木や電柱にタールを塗る代りに、表また鉄道枕木や電柱にタールを塗る代りに、表また鉄道枕木や電柱にタールを塗る代りに、表また鉄道が木や電柱にタールを塗る代りに、表また鉄道が木や電柱にタールを塗る代りに、表また鉄道が木の電柱にタールを塗る代りに、表また鉄道が木の電池を関連を関いている。

製炭の規模拡大と企業化

ほとんどが、広葉樹を原木にして製炭されたもの下から発掘される天然の木炭もあるが、その木炭というと、富士火山麓の丸尾(熔岩流)

炭に大別される。水や土をかけて消火する消し炭と炭窯で焼く堅のである。製炭法は、原木を積み重ねて焼き、

できる。 を窓外に掻き出し、土や灰でおおって消火した白炭とがある。白炭は比重が大きく、水中では沈んでしまうほど重い。また叩くと金属音がするのですぐ判別できる。発火点では黒炭の方が低いが、火保ちは白炭の方がすぐれている。わが国の木炭で最高品といわれる和歌山県産のおが国の木炭で最高品といわれる和歌山県産のおいが、ウメバカシを原木に用いた白炭で、一五キロー俵の卸し値が五○○○円、小売値が八○○○円もする高級炭である。

現在木炭生産地をみると、北海道、岩手、秋田、福島、栃木、新潟、和歌山、高知、長崎の一〇道県で、全国生産の六一%をしめている。 ・クヌギなどの原木とする白炭は、和歌山・高知・宮崎など照葉樹林帯に多く、一方コナラ・カ・宮崎など照葉樹林帯に多く、一方コナラ・スオナラなどを原木とする黒炭は、主としてブミズナラなどを原木とする黒炭は、主としてブミズナラなどを原木とする黒炭は、主としてブミズナラなどを原木とする黒炭は、主としてブラストが帯で生産されている。

第二次大戦後まで、主産地における製炭は、第二次大戦後まで、主産地における製炭の盛んな北上山地など東北の四一年まで、製炭の盛んな北上山地など東北の四一年まで、製炭の盛んな北上山地など東北の山村では「義務教育免除地区」に指定されていた地域も少なくなかった。

在では「庭先製炭」に変り、交通の便のよい集 を大力になった。全国の市町村で製炭第一位 るようになった。全国の市町村で製炭第一位 るようになった。全国の市町村で製炭第一位 の大力工年一四五一トン)の長崎県対馬の生 県町では、一企業が三八基の窯を経営し、中黒 県町では、一企業が三八基の窯を経営し、中黒 県町では、一企業が三八基の窯を経営し、中黒 県町では、一企業が三八基の窯を経営し、中黒 県町では、一企業が三八基の窯を経営し、中黒 県町では、一企業が三八基の窓を経営し、中黒 県町では、一企業が三八基の窓を経営し、中黒 県町では、東業者は一戸当たり三~七基の窯を 米町では、専業者は一戸当たり三~七基の窯を 米町では、専業者は一戸当たり三~七基の窯を 米町では、東業者は一戸当たり三~七基の窯を として出荷している。 とのように製炭も企業化されている。

製炭の現状と木炭の再評価

が運行されたからである。

おび国の製炭がピークに達したのは一九四○

おび国の製炭がピークに達したのは一九四○

が連行されたからである。

いる。インドネシアなど東南アジアからも輸入されてメートルにすぎない状況にある。そこで木炭はの六・五%)で、うち国内生産量は三五万立方の二年の国内消費量は六一万立方メートル(全量

最近の木炭消費傾向をみると、一般家庭用が最近の木炭消費傾向をみると、一般家庭用が高いてれたとなり、焼き鳥などの味を落まと結びついて水となり、焼き鳥などの味を落まと結びついて水となり、焼き鳥などの味を落まと結びついて水となり、焼き鳥などの味を落まと結びついて水となり、焼き鳥などの味を落まとれた対して炭素が主成分の炭はからっと焼きあげるので、味がよくなる。

現在木炭の一袋当たり重量は一二キロであるが、販売を拡大するため、二・三キロの小量包売られるようになった。これは屋外のキャンピングに用いられるもので、発火剤をそえてあるので、使用しやすい。新しい用途としては、木炭が土壌改良剤に用いられている。それは好気性の菌類の活動を助長するものである。また牛・豚・鶏などの飼料に、木炭の粉末を混じて与えると家畜の消化を促進する。

な食生活、低生活を充実させたいものである。 を入たちの生甲斐対策にしている事例が各地で となるという。広葉樹林の有効な利用を進める ためにも、製炭を復活し、木炭を利用した豊か ためにも、製炭を復活し、木炭を利用した豊か ためにも、製炭を復活し、木炭を利用した豊か ためにも、製炭を復活し、木炭を利用した豊か ためにも、製炭を復活し、木炭を利用した豊か

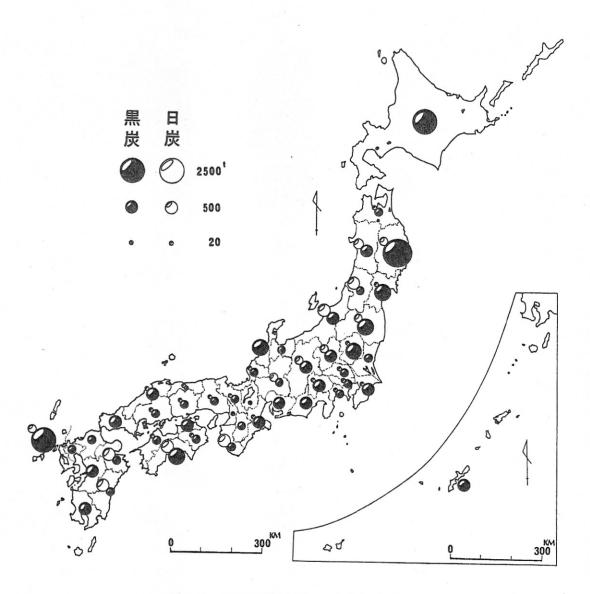


図-1 都道府県別木炭の生産高(1984年) 第60次農林水産省統計により作成。

研究会・日本の川を考える(4)

川と地域・流域

講師 田 中

茂(組合林業株式会社社長)

参加者 田中·秋山·内山·黒木·萩野(会場 所 大日本山林会会議室

《 田中茂講師の問題提起》

負以外七人)。

はじめに

ついて述べて見たいと思います。だ者です。今日は日本の川と山とのかかわりにとの研究をしてきましたが、今は別の道を歩んとの研究をしてきましたが、今は別の道を歩ん五七年から八年間水利科学研究所で、川と山

ことが、必要でないか」ということです。今日の川の問題がでてきたように思う。川や山今日の川の問題がでてきたように思う。川や山門家はいたが、その人達だけに川を任せたから門家はいたの専門家はいるのか、河川工学など専についての専門家はいるのか、河川工学など専まず、この問題の結論から申上げると、「川まず、この問題の結論から申上げると、「川まず、この問題の結論がら申上げると、「川

いような風潮があった。評論家で活躍している然科学の工学分野でないと水や川の話が出来な学で川と水をやるのは理水砂防工学でした。自私はもともと林学(林政学)出身でして、林

ながた色で体をですないできません。林について啓蒙した意義は大きい。林について啓蒙した意義は大きい。かったと思う。しかし、富山さんが川や水・森富山和子さんもそういう意味での専門家ではな

できない大きな働きをした。私が大学で林学を専攻したいと考えたのは、私が大学で林学を専攻したいら計画が発
がアに森林を植えて改造しようという計画が発
あされたりして、森林が地球の気候を変えるも
あされたりして、森林が地球の気候を変えるも
あされたりして、森林が地球の気候を変えるも
ある大きな影響を受けたからだ。イリンの作品か
の専門家としてでなく啓蒙家として専門家では
できない大きな働きをした。

、川とのかかわりから

思いを述べました。行」という連載を一年にわたってやり、川への『現代林業』という雑誌に三年前に「流域紀

にもう工場廃液で川が汚されていた。当時は荒てくる魚を捕った記憶があるが、昭和一三年頃れた運河のほとりに住んだ。酸欠で弱って浮いれた運河のほとりに住んだ。酸欠で弱って浮いる魚を捕った記憶があるが、川らしい川に出会った中間中戦争のとき母親の実家の奥三河の鳳来町日中戦争のとき母親の実家の奥三河の鳳来町

大切でないか。

大切でないか。

大切でないか。

大切でないか。

今は船橋から通勤しながらったのでしょうか。

今は船橋から通勤しながら川は放水路と呼んでいたから、本流は墨田川だ

二、ハゲ山の形成と治山技術なったのは水利科学研究所に入ったからです。も見ました。川や山を科学的な目で見るようにも見ました。川や山を科学的な目で見るように中学時代からは狩野川で、狩野川水害の被害

先月足尾に行きましたが、日本のハゲ山は瀬戸内地方・淀川流域・瀬戸などに多く、緑化(山腹工事)に明治以前から努力して、治山の主流は山腹工事だった。奚流にダムをつくり河床を安定する溪間工事の主流は明治期にオストリーから入ったが、そのきっかけになったのは足尾であった。亜流酸ガスの煙害で人工的ハゲ山が大量に出来たので、従来の緑化による工法では度旧は困難となったため、土木的工法で山腹の安定を計ろうとした、という説を私はとなえて安定を計ろうとした、という説を私はとなえています。

三、日本の山河と流域特性

って述べてみたい。いままで歩いた川の状況を「流域紀行」にそ

は有数の酪農地帯で、利尻・礼文と一体の国立を記録に残そうということで調査をした。現在が草地になっていくため、湿地のアカエゾマツ林<天塩川>大学の卒論で、河口のサロベツ原野

本が切られたもの。 本が切られたもの。 本が切られたもの。 本が切られたもの。 本が切られたもの。 本が切られたもの。 本が切られたもの。 本が切られたもの。 本の最低の保全もさ 本が切られたもの。 本の自然河川の姿は失われていた。 天塩村時代というのが明治三〇年代から、 を対していたが、数年前行ってみると蛇行 である。北上するにしたがって水田が畑に、さ らに草地に変わる。長いこと日本の自然河川の をで流さ れている。天塩川は日本の川に珍しく緩流河川 なっていたが、数年前行ってみると蛇行 は表となっていたが、数年前行ってみると蛇行 である。北上するにしたがって水田が畑に、さ られている。 大正まで続いた。最盛期二三~三〇万㎡の大 は、されている。 大が切られたもの。

関に遊水地が計画されつつある。とのためカサリン台風などの被害を与えた。一さのられた。狐禅寺付近では川幅が狭くなり、発・食糧増産など岩手県側のダム開発中心にす焼県側の治水中心にすすめられ、戦後は電源開城県側の治水中心にすすめられ、戦後は電源開

といわれている。三〇年目の水利権更新にあたといわれている。春先から水が少ないと川霧が発生しれている。春先から水が少ないと川霧が発生しれている。春先から水が少ないと川震が発生しれている。春先から水が少ないと川だった大井川が、河原砂漠になった。電源開発に有利な川でが、河原砂漠になった。電源開発に有利な川であったためダムが作られたからで、河原に水がなくても、発電所への導水管には満々と水が流れている。春先から水が少ないと川だ。人へ利根川>多くの学者が調査してきた川だ。人へ利根川>多くの学者が調査してきた川だ。人へ利根川>多くの学者が調査してきた川だ。人へ利根川>多くの学者が調査してきた川だ。人へ利根川>多くの学者が調査してきた川だ。人

できなくなっていることはショックだった。 を表する内容が、 の森林を抱えていても、住民は林業では生活 が業生産は激減している。大井川流域はあれる 大きので三分の一以下になっている。かつて は大井川流域は天竜川と並ぶ林業地帯で、最盛 は大井川流域は天竜川と並ぶ林業地帯で、最盛 は大井川流域は下竜川と並ぶ林業地帯で、最盛 は大井川流域は下竜川と並ぶ林業地帯で、最盛 大も無くなった。一〇万haの森林がありながら 林業生産は激減している。大井川流域はあれほ だの森林を抱えていても、住民は林業では生活 できなくなっていることはショックだった。

焼きや焼き畑もある山村で、足羽川流域では植弱くて、早くから砂防工事もやられていた。炭<九頭龍川>急流河川ではないが、地質的にも

つくった。本流流域には荒廃した山村がみえるが伐採業者になり中小規模の所有者で人工林を林もやられ林業地として有名。筏流しの労働者

〈淀川〉西日本の代表的な川だ。歴史が古く、〈淀川〉西日本の代表的な川だ。歴史が古く、〈淀川〉西日本の代表的な川だ。歴史が古く、

業という日本でも有数の林業地帯がある。長安口ダムの建設によって筏流しがなくなった。昭和三三年に行ったが、五〇万石の生産材が陸送に変わった。民有林の半分が下流の製材業者の内とする木頭森林組合が下流の製材業者の内とする木頭森林組合が下流の製材業者=不在村大所有者と、在村の森林所有者と分裂した頃だ。大所有者による原木市場が形成され、製材だ。大所有者による原木市場が形成され、製材が、大所有者による原木市場が形成され、製材がの労働争議がこの頃頻発した。

拓団が出ている。木炭の生産の盛んなころは川 内れた。西高知の山岳地帯を蛇行して流れ、中 たの堤防も高く川は街から見えないが、水量は 豊富。国有林は特別経営時代にヒノキを植え、 豊富。国有林は特別経営時代にヒノキを植え、 豊富。国有林は特別経営時代にヒノキを植え、

らの扱いが求められる。 だ。風土という言葉を日本人は好むが、同じよ にその通りだ。経済性でなく国土保全の立場か 海も荒れる」という言葉が沖縄にあるが、まさ 枯れ海草も魚も育たなくなる。「山が荒れると 赤土がスコールで流出、海が真赤になり珊瑚も うに中国から入った風水や、水土が沖縄では生 きている。森林をパイン畑にする伐開で、山の 山河にストレートに出やすい。ナイーブな自然 なりの広がりがあって人間の扱いがストレート に出ないが、沖縄では島が狭く、人間の影響が <沖縄>日本唯一の亜熱帯。本土の山河はそれ

なり、砂漠の緑化にも支障があるのではないか。 もいいと思う。近代化で辺地には人が住まなく い直した「上山下郷」運動の意義は評価されて のではないか。黄河は一石に六斗の泥を含むと れた。戦時中の長江や黄河の仕事から学ばれた いう。文化大革命は経済発展のテンポを遅らせ われ、昭和二〇年代に水田の湛水能力に着目さ い。土地利用全体で考えないといけない」とい ムや築堤など河川敷地内の工事だけでは防げな 上げた。東大の故安芸先生が「治水事業は、ダ <黄河>日本と比較する意味で中国の黄河を取 知識階級が僻地に住み、労働の意味を問

かで今回のテーマに関係するものもふくめて紹 質疑の前に自己紹介がありましたが、そのな

◇四万十川は清流でない。適当に汚れているか

◇木曽川を考えてきたが、木曽川にはダムが三

整理するかだ。感覚をどう整理するかはプロ ら漁がいる。生活している人の感覚でいかに の役目。そのとき専門的な切口ではうまくな

◇生徒数二○人ほどの山の中の定時制高校の教 くりと水を守り森林づくりに役立てるべきだ。 継がれていない。田中正造のように、地域づ 自由民権・社会主義の発祥の地だが地域に引 あってきれいになった川でない。あの流域は 子のように思う。四万十川は川を守る運動が 史と受験期に作られた歴史がうまく渡れない ていると、 師だが、『落ちこぼれ』といわれる生徒をみ 幼児の川や山で遊んで作られた歴

◇神奈川県の早川のそばで育ったが、川は一○ が、川をきれいにすることで地域に恩返しを 年来変わった。川の傍に穴を掘り産業廃棄物 したい。 を捨てる。五年に二つの釣りクラブを作った

◇神戸では人工の川に遊び螢もいる。しかし、 自然の川とは違う。「文化の川」に満足して いるが、これでいいのか、と思う。

◇日本の林業を考えるため、外国の林業をみて 造は私の推測したように変わったがこれ以上 が始まり、戦後の高堰堤で一万数千人の筏流 場を勉強した。筏流=川は林業だった。水主 きた。そこから日本に立ちかえって筏流と市 構造を変えてはいけない。 労働者は失業し、川は死んだ。戦後に森林構 火従の発電政策で大正一〇年からダムの建設

い。楽しいことも必要。

◇九州の川が出なかったのは寂しい。筑後川 じる。 守っているが、檜原では主張がなくて補償も 摩町では都が、入会林に補償をして水源林を 有林か部落有林かで紛争になっている。奥多 出てくると紛争になる。福地ダムの周辺も公 の利益であった入会地が、土地として価値が の裁判をめぐってだが、そこへ入ることだけ 球磨川などある。沖縄へ最近行った。入会地 でいる。水利権や河川管理の行政の歪みを感 流量の少ない川に生活排水が入り汚染が進ん も卵を生まない。観光としてもマイナスだが 起きていない。天然魚は居ないし、放流して 一か所ある。大井川と同じだが、住民運動は

◇戦後近代思想は双刃の剣だった。その片方の から奪われたプロセスは。 刃が最近まで見えなかった。日本の川が住民

田中 ら離されていった。 なども制度からはなくなった。技術が大衆か 直轄化し地域と疎遠になった。水害予防組合 落共同請負だったが、県・国の事業になって 費になった。ため池の周辺の治山ははじめ部 ・森林法ができた。大河川流域の築堤費が国 明治二九年河川法が成立、ついで砂防法

◇デレーケが来日して滋賀県の周辺で山腹工事 開設前だった。高堰堤の始まった大正時代か をする。現地の材料を使って芸術的ともいえ る。足尾が問題になったのは明治二三年国会 る石積堰堤をつくるが、彼が足尾の工事もす

法と同じになった。内務省と農商省の争いだ 年に原案が出来たが、成立は、河川法・砂防 ら川と住民が切り離された。森林法は明治八

◇行政の近代化は、資本主義独占化のため森林 してそれまでの住民の慣行以外に許可して与 ・河川を押えようとした。発電・工業用水と

◇明治は治水が中心で、デレーケの方式を否定 したのが、大正中期の高堰堤だ。

◇川を大衆に戻すには。

報公開が必要だ。 素人でも川について地域で発言できる情

◇多摩川でも羽村から下をどうするのか、下水 ◇広域下水道で流域の水が少なくなるのではな だろうが……。 処理をした水をポンプアップすることも方法 いか。川を大衆や地域に返すことは大切。

参加者

(敬称略) 秋山、内山、黒木、

田中

萩野、松沢、会員以外五人

◇役人が先端の学問をし、英知をしぼってやる ◇筏が流せる川が、川としての最低の流量だ。 つくることも。専門的なことは、その委員会 つの方法だ。住民を入れた河川管理委員会を とでは大衆の手に川は戻らない。自分が勉強 を奪った。文句をいって役人にやらせるこ 行政が正しいとしてきた。それが地域から川 し、仲間と共同で行動することだ。署名も一

一 ダム問題も山村住民にとっては、山村に ダムの必要性についての議論は不十分だ。 残るべきか、出るべきか、の議論が中心で、

に専門家を呼んで判断すればいい。

◇水をかえせ−の運動に電力会社は「では電気 は無くてもいいのか」というが。

◇経済的価値観の他に価値観を持つことが余裕。 きたのでないか。 環境問題はそうした余裕ある価値観から出て

◇放水の量を徐々に増す運動を積み上げること

◇電力はピーク時に合せて施設が作ってある。

筏流から河川をみる

講師 萩

大日本山林会会議室 一〇月二一日午後一時半

《萩野敏雄の問題提起》

①木材の輸送要因としては、労働力・形質(木 川は林業生産力だった。その視点から筏を研究 ました。川を研究しようとした訳でなく、昔は 北海道を除いている。 その視点から川をみてきた。これからの話しは 林学出ですので、山は樺太から台湾まで歩き

②日本の林業地は河川を中心として形成された。 陸運が困難であったので、木材の輸送に最適 太い・樹種などが影響)・手段・距離。 材の輸送はこれに特質があって重い・長い・

> ◇水力は貯水量に比し利用度は二割台。前の勉 強会でも、電力会社が押えていない小さい川 だ。木材発電もアメリカではある。エネルギ で小規模発電し、村内の需要を賄う自治体の 話があった。布製のダムで堆砂がないやり方 を自給すれば電力会社への発言力も増す。

内地における-

野 敏 雄 (大日本山林会常務理事)

重要な林業生産力だった。 した。当時の河川は、現在の林道に匹敵する な筏流が可能な川があるところで林業が発達

③それでは、木材の筏流から河川の性質のどん なことが分かるかだが、

①筏という点からみて大・中・小という分類 ができる。

(2)流速·川幅·曲折·難所 (岩場·淵·落差) などが分かる。

3)筏を通じて「ここからここまで」という区 切り、いわば川の区切りができる。

④木材筏流からみた河川ミニマムと河川分類 平常の流量。筏流が可能かどうかで、河川を 河川ミニマムは、十一月から翌年三月までの 分類できる。

①零細河川は筏流は不能か、小丸太 (末口径 16㎝以下)を一本づつ流す管流程度。

生活を見直すことも大切。

以上の管流が可能。 以上の管流が可能。

(3)中・大河川は筏流が可能。

利になる場合がある。
一名が、木材の場合は水に浸けた場合の方が有き通の商品は水に入れると使用価値が無くない。

(1)木材は水に対す浮力を持つ。

間に色が抜けピンク色になり材質が良くない脱色する。木曽ヒノキが典型だが、筏流の(3)脱色する。木曽ヒノキが典型だが、筏流の(3)水面(中)に蓄える(貯木)ことが可能。

⑥木材筏流の欠点 (4)生材であれば、水中で長期保存が可能(乾) (4)生材であれば、水中では割裂防止に (4)生材であれば、水中で長期保存が可能(乾)

った。 均して一割は流失する。時には全量流失することもあり、賭けともいえる輸送方法だることもあり、賭けともいえる輸送方法だい流失の危険性がある。熊野川の例では、平

が多かった。 どのある河川を人力で輸送するだけに災害 のある河川を人力で輸送するだけに災害

③天候・水量に左右される。

定が困難。 (4)筏流の所要日数が長期で不定。納品日の特

物理的に不可能。 招き不可能。また、一度に多く流すことも り筏流は多くの業者が流すことは材の混乱を

⑦筏の類型

1)第Ⅰ類型 (単一型)

育団(1円型)京、大淀川筏。川筏、那賀川筏(徳島県)、大淀川筏。野川筏、天竜川筏、太田川筏、徳島県吉野の。久慈川筏、那賀川筏(茨城県)、阿賀単一に組まれた筏が最後まで変化しないも単一に組まれた筏が最後まで変化しないも

②第Ⅱ類型 (一列型)

w。のないもの。米代川筏、安倍川筏、保津川され、しかも流末地点までその形態の変化二枚以上の筏が固定的でなく、一列に連結

(3)第Ⅲ類型(複合型)

⑧木材流送の技術構造(略)

③木材流送における行政的規則
 ③木材流送における行政的規則
 ③木材流送における行政的規則
 ③木材流送における行政的規則

①時期区分二、木材流送の沿革の時期区分と指標河川

正四年)。

(2)第二期 木材流送後退期(大正五年から昭2)第二期 木材流送後退期(大正五年から昭和八年が最後。電力会社がダムつくり流送をさせない――ということが起こる。代表的な事件は木材会社の社長だった平野増吉(元岐阜県知事の平野三郎の父)が訴訟を起こし、大正十四年から昭和八年まで法曹界の重鎮岸清一弁護士(岸体育記念館の寄付者)を立てて争った庄川事件。

(3)第三期 木材流送消滅期(昭和二八年からの第三期 木材流送消滅期(昭和二八年からの借款による佐久間ダム着工の銀行からの借款による佐久間ダム着工の銀行からの借款による佐久間ダム着工の昭和二八年四月)に始まる高堰堤式ダムラッシュが各地の筏流を決定的に圧殺した。 後が流せなくなった川は死んだ。

②指標河川

①指標(全盛期の明治四二年現在)

指標となると考えている。料の有無などの点からみて、次の八河川が年間筏流量、筏類型、地域的分布、推移資

多摩川 (大正七年四月に施行河川)。(2)米代川 (大正六年六月に準用河川)。

筑後川(明治二九年六月に施行河川)。那賀川(大正五年十一月に準用河川)。紀ノ川(大正五年十一月に準用河川)。紀ノ川(大正一二年四月に施行河川)。一天竜川(明治三三年四月に施行河川)。

大河川は小谷は管流で出し本流は筏流。①当初の出材は流送が中心。小河川は管流、中三、木材流送の衰退と陸運との関連

影響度は鉄道と河川が並行か否かで大差があの鉄道の発達が最初の後退要因となった。その

型的で、全部鉄道に川は直角。そのため後日高川・那賀川。県単位では和歌山県が典の直角=阿賀野川・大井川・天竜川・熊野川の下流並行=紀ノ川・吉野川(四国)。

③大正十一年からトラック輸送が始まる。東京

まで筏が残った。

だった。
ではそれは出来なく、筏流にとっては決定的ではそれは出来なく、筏流にとっては決定的ムなら魚も上がれるし、筏も流せた。高堰堤の高堰堤式ダムの着工。水路式、調整池式ダム正十一年七月に大井(木曽川本流)で最初

米代川(昭和三九年一一月が最後)。 り。
り。は次の通

筑後川(昭和二七年九月が最後)。

天竜川(昭和三二年一月が最後)。

熊野川(昭和三二年一月が最後)。

熊野川(昭和三二年一月が最後)。

道路も整備され消滅した。民間の最後は熊野筏を組んでいた二ツ井町に製材工場が出来、と道路整備によるものだった。それまでは筏と道路整備によるものだった。それまでは筏国有林経営の合理化、「二ツ井町製林工業」

四、河川・筏流の『死』だけで、筏流には無関係だった。

専業一九○五人)。 昭和二七年五月調べは管流二○三万八千石、

①木材流送路に対する国庫補助(筏を流すのに①木材流送路に対する国庫補助(筏を流すのに

った。 られ、各地の筏流河川は寸断され、枯れてい ②河川は、電力エネルギー・都市用水等に変え

①労働
五、木材流送労働者と組織

った。 習いを始め、兵役につくまでに一人前にな⑴一般的に小学校を卒業して父親について見

だった(非混合職種)。 とし、他の林業労働者のようにいくつものとし、他の林業労働者のようにいくつもの

は木材商人と団体交渉で決めた。村労働者の中で一番高く、賃金も大河川で3山村労働の中核的地位を占めた。賃金も山

4)高賃金。通常の林業労働者の二~三倍は取

日本の筏を歌ったもの。 番技術を持っていた紀州の労働者は、朝鮮満州(中国東北)へ行った。鴨緑江の筏流満州(中国東北)へ行った。鴨緑江の筏流の筏流の季節は専業。後の半年は、例えば一

②労働者数

明治四二年九月の調査では二万七二八三人。明治四二年九月の調査では二万人をはるかに越えるが、全国の合計では三万人をはるかに越えみで、全国の合計では三万人をはるかに越える労働者がいた。筏流の衰退によって離散しる労働者がいた。

大沼が強力で、ここが新宮の商人ときめた賃渉をしていった。熊野川では瀞八丁の上流の徒弟制度で、このギルドが木材商人と賃金交③存在形態は、全部ではないが職能組織だった。

だった。 は林業の中では最初の専業化した労働者集団 金が、十津川水系にも波及した。筏流労働者

六、特徴的な河川について

四年九月にできた。三田領筏組合は明治二は安永三年にできた。三田領筏組合は明治二①多摩川には筏師組合があった。小宮領筏組合

推察できる。 多摩川の筏は、大正一二年まで流れていたと でも東京市水量が不足すればストップした。 筏業者が願い一時間だけ流した。定まった日 の日だけ、一一~三月は五の日と六の日だけ。 録でみると、四月は六の日だけ、一○月は五 水道の取水の影響も大きい。明治四一年の記 大正一一年に始まり影響を与える。東京市上 移り、丸太が徐々に鉄道に移行。トラックが 年一一月にできてから。製材品がまず鉄道に の筏流が後退したのは、青梅鉄道が明治二七 筏宿があって、筏を操った労働者は筏を留め 材は一八里の間筏送した。羽田空港の付近に 郷川の河口でハシケに積み木場へ運んだ。こ て泊まった。木場から問屋が買いにきて、六 には製材品を丸太の上に乗せて運んだ。青梅 多摩川の特徴は大消費地の東京に近く、筏流

②木曽川は水量は多かったが、本流は難所が多の大曽川は水量は多かったが、本流は難所が多の大僧川は水量は多かったが、本流は難所が多の大僧川は水量は多かったが、本流は難所が多いた曽川は水量は多かったが、本流は難所が多

新らしい年をお慶び申し上げ

力を傾ける年としたく存じます森林の保全、育成にお互いの

一九九〇年元旦

民森林会議 顧問 東山 魁夷

会長 隅谷三喜男

職員一同

役

新聞 ・この三カ月

9 月

本部反発(五日 切り「弱者切り捨てだ」全山労県 **霽西日本** 振動病の医療補償打ち

間労働者だけの打ち切りはまさに 有林の労働者組織、 っている労働省を批判、 弱者切り捨て」と、補償業務を行 ち切りは全国でも一件もなく、民 葉委員長は「国有林の労働者の打 ことを明らかにした。この中で椎 山林労働組合本部(椎葉種蔵委員 し四月末と八月末に打ち切られた 九人の医療補償と休業補償がこと 振動病で苦しむ県下の林業労働者 民有林の労働者で組織する全国 打ち切りの白紙撤回を労働省 は四日人吉市で記者会見し、 全林野と共闘 今後は国 b 北部で実施 龖 沖 縄

する「木曽地域振興会議」はこの 木曽郡で中高生アンケート(八日) 朝日 県と木曽郡十一町村などで構成 郡内の中・高生が木曽地域 リゾート開発半数が反対 などが大きな問題として挙げられ 要説明を行った。現在、 県庁記者クラブで会見、 ており、 ア地域での日本企業による乱伐採

東京で開かれる地球環境

九重町

金余り、高速道で拍車

調査の概 東南アジ

働き掛ける。

料にすることにしている。 来は木曽以外に住みたい」などの ると、「リゾート開発に反対」「将 これらの意見を振興構想策定の資 のアンケートをまとめた。それによ についてどのように考えているか 意見が半数を占めた。同会議では

系を破壊している問題など、世界 に当たる琉球大学の池原貞雄名誉 化に関する調査を開始する。 北部で近く森林伐採による環境変 金日本委員会(WWFJ)は本島 的規模で環境問題がクローズアッ プされている中、 教授と翁長謙良教授は八日午後、 森林伐採による土壌侵食が生態 (九日) 世界自然保護基 調査

森林伐採での環境変化調 して注目を集めそうだ。

った 主張(十日) 島で切らせぬ 뾃 朝 日 鹿児島で法廷論争「国有」 絶滅寸前の珍種松 国 伐採業者に待 屋久

注目されるデータ 近く本島

WWFJの池原教授

林内である」と反論している。 論が開かれるが、業者側は、「民有 クタネゴョウは種子・屋久地方に 国が国有林であるとして、 を主張して伐採しようとしたため、 ネゴョウなどを含む立木の所有権 が原生林にある絶滅寸前のヤクタ 靈西日本 しか自生していない世界でも珍ら していたことが九日わかった。 確認請求訴訟を鹿児島地裁に起こ 鹿児島・屋久島で、木材業者ら 来月五日に第一回口頭弁 別荘ブーム空前 所有権

今回の調査は非常に貴重なものと テーマの一つにもなっている。森 保全会議(十一日~十三日)の主要 極めて少ないとされているだけに、 林伐採がもたらす環境変化の問題 については、その具体的データが

め始めた。 末町民』がもたらす難題に頭を痛 びながらも、福岡などからの、週 資を呼び込んでの現象。地元では 田間が開通する同町への不動産投 に九州横断高速自動車道朝倉―日 泉に加え、最近の金余りが、 に入り爆発的な別荘開発ブームが 起こっている。大自然と豊富な温 「町の活性化になっている」と喜 九州の屋根・くじゅうの高原 大分県玖珠郡九重町で、 来春

10 月

業に早くも黄信号がともった。 発の,先兵,として期待される事 事らは「立地条件の悪さと施設の 問で市川精香議員(社会・革新連合) 陥っている。五日の県議会一般質 県が年金福祉事業団の委託を受け に黄信号 県は施設拡充に力(六日 靈朝日 トランの誘致を働きかけていると 設を充実させるためプールやレス 魅力不足などが原因」と釈明、 て建設、昭和六十二年十月にオープ とを明らかにしたが、リゾート開 ーンピア土佐横浪」が営業不振に ンした大規模年金保養基地「グリ 国民休暇県・高知の中核にと、 この問題を取り上げ、 IJ ゾート開発の『先兵』 中西知

ルフ場建設問題に影響を与えそう 方は県内各地で表面化しているゴ は水源問題などがあり、 地裁諏訪支部に起こした。背景に を相手取って損害賠償と給水しな するとして、 民十七人が十三日、 る別荘地への給水計画に対し、 ゴルフ場九ホール増設と、 局が同町内の国有林に造成してい ように求める二件の行政訴訟を 諏訪郡富士見町が計画している 町長と国 (法務大臣) 町条例に違反 訴訟の行 長野営林 町

地給水

毎日

ゴルフ場増設

靈岐阜 呼べ周辺町村 17 い期待(十五日) 霊山・御岳に、救世主 「グリーン・プラン」

村では、 に注目されるようになったのは今 斜面での大規模観光開発がにわか 側で今、 報告書をまとめたことによる。(中 せるのだが ——。 もなり得るリゾート開発。 ている。 大自然を懐に抱くこの霊峰の飛騨 長野両県に高々とそびえ、 1 日 林野庁がこの地域一帯での「ヒ 御岳・鈴蘭高原地区は、 マン・グリーン・プラン」調査 本三霊山の一つ御岳。 開発実施に熱い期待を寄 地域振興の、救世主、と 観光開発構想が進められ /御岳の北西部 豊かな 周辺町 岐阜、

条例違反と提訴(十三日) ・別荘 四百 構想 るほ ゴ 所の重点整備地区(合計一万七千 佐久合同庁舎で総会を開き、六ケ 三浦大助佐久市長) す信州フレッシュエア・リゾート エリア整備推進連絡協議会(会長 信 ル 原生林と自然景観に恵まれてい ha に基づくリゾート開発を目指 合保養地域整備法 候補地として最適とした。 フ場などの観光資源を持つた か良質な温泉資源とスキー、 濃毎日 年明け承認見通し(二八日) 整備方針と環境保全、 「千曲川高原リゾート は二十七日、 (リゾート

曲川 貝 しだ。 了承した。県は三十日、 景観などの配慮事項をまとめた「千 高原リゾート」の基本構想を 承認されれば全国で十八番 明けにも承認される見通 国に正式

11 月

爾佐賀

背振山頂のブナ林、黄信

雨に関するデータが浮かんでいた。 書の主も記者の頭にも最近、県公 のはがきから取材は始まった。投 様子がおかしいんです。この一通 無理もない・ センター 背振山頂のブナ林に黄信号? 目立つ枯れ木や倒木(一日) 枯れ木や倒木が目立つなど が発表した県内の酸性 背振材は酸性度四・

市が募集中

虫害診断や市民の指

賀営林署は「森林被害は担当区事 四と県内で最も高い数値を示して ていない」という。「一 務所から報告があるが、 いたのだから。 説だった。 しれません」 台風被害で倒れたものもあるかも 県森林保全課も風 (中略)管理者の佐 部、 何も聞 寿命や 11

食べる、 も十日 が杉、 岐阜、 を陳情し、 倍以上になっていることがこのほ 野県下から愛知県域に拡大、 害面積一〇年で一二倍も(四 靈産経 る文化庁、 知県はカモシカ対策を協議してい へ避難したのが原因とみられ、 県下の南、 獲を認められている岐阜、長野両 ど、分かった。 十年間で愛知県の被害面積が十二 国の特別天然記念物のカモシカ ヒノキなどの植林の新芽を 長野から追われ愛知へ いわゆる食害が岐阜、長 同様に申し入れる。 「カモシカ食害」南下 北アルプス山系から南 地元市町村、 環境庁、 食害対策として捕 林野庁に捕獲 森林組 この 旦 被 愛 合

羅 岐 阜 する。 来春には 中 部 IJ

羅朝日 緑の保全へ「樹医」出 雲

の環境保全を図るためで、 を決め、 めには五~十人の資格認定をし、 樹医の募集を始めた。 「樹医センター」も設立 ゾート乱立、 来月初

世紀に向けたリゾート開発」をテ 午後、三重県志摩郡阿児町のホテ 過熱気味のリゾート開発ブームに 中西陽一石川県知事が「全国でい いるが、 津端修 講師に招かれた元広島大学教授の ルで開かれ「余暇の拡大と二十一 込んでしまうことになる」 懸念を示すとともに「リゾート めき合い、 ろいろなリゾート 民生活の実現という視点も重要」 スという産業領域としてとらえて 梶原知事「国際的魅力を」(十七日) などと指摘した。これを受けて、 「企業はリゾートをニュービジネ 伴う問題を指摘した。 よって、 ゾート開発」をテーマに講演し マに意見交換した。会議では、 第五十五回中部圏知事会議 名古屋市長で構成)が十六日 北陸七県と長野、 一氏(建築学) 余暇を含むゆとりある市 圏知事会議、 特定の人が土地 異常なことだ」などと (構想) がひし 滋賀両県知 が「余暇と 提言相次ぐ 個性が必 を囲 東

27

市民の求めに応じて派遣すること

を樹木の医者「樹医」に委嘱

を指導し、

病害虫診断ができる人

島根県出雲市は、 (十二日)

庭木の育て方

会員の消息

に。全国の市町村などに置く一万冊を刊 (一二〇〇㎡)を刊行する発起人の一人 児全員を紹介する写真集『私は誰ですか』 わからなかった一〇七四人の中国残留孤 お出孫六さん 参加したものの身許の

○○○円)の寄付を呼びかけました。行するための費用五○○○万円(一口五

公共住宅論序説』が審査対象論文。「新れました。『内務省住宅政策の教訓――れました。『内務省住宅政策の教訓――このほど北海道大学

のだ」とは本間さんの弁。 強しかない。それがたまたま認められたらしいようだが、取材対象に迫るには勉聞記者が在職中に博士号をとることは珍

会員の出した本

「『農業の価値体系』、つまり人類にとって農業とはなにかを探求する」ことをって農業とはなにかを探求する」ことをって農業とはなにかを探求する」ことをって農業とはないがを探求する」ととを

執筆しています。 執筆しています。 教育にとって農業とは」、終章「人間 と、第二章「農業と『生』の原理」のう 第一章「人間にとって農業とはなにか」 第一章「人間にとって農業とはなにか」

すべてにかかわり、工業化社会の価値体農業は人間の生(生命・生活・人生)

章)。の生を疎外する危機の進行を警告(第一系(パラダイム)によって、農業と人間系

終章と筆者の考えを展開します。「教育的・精神的観点から」評価し「大「教育的・精神的観点から」評価し「大農業は食糧の生産を担うだけでなく、農業は食糧の生産を担うだけでなく、

せん。豊富。退官記念出版という堅さはありま生編の論文は実証的で、内外の実例も

中の「二、入会林野整備後の経営問題―

生産森林組合論を中心に―」を会員の

第三章「入会林野整備後の諸問題」の

っています。

は、時代の流れを感じさせます。 とは、時代の流れを感じさせます。 とは、時代の流れを感じさせます。 とは、時代の流れを感じさせます。この近代 に対なのを越える入会林野が、農林業近代化 のため、個人所有化を目的に解体する立 といたのにとは明らかですが、当時の林業 の範中には「森林空間の活用」という視 のが中には「森林空間の活用」という視 はが無かったことを知り、政府が国会に は出している「森林の保健機能強化法」 とは、時代の流れを感じさせます。

半田良一さんが執筆しています。「入会半田良一さんが執筆しています。「入会 半田良一さんが執筆しています。「入会 半田良一さんが執筆しています。「入会 半田良一さんが執筆しています。 半田良一さんが執筆しています。 半田良一さんが執筆しています。 半田良一さんが執筆しています。 に利用権や貸付規制など自律性をもたせること、②既存の生産森林組合が商品生産の担い手として、かつ国民生活の向上に対応した土地利用の集約化を実現するよう指導を求めています。

んが講談社のブルーバックスの一つとし人間にとって森林とは何か 菅原聡さ

「荒廃を防ぎ再生の道を探る」という

西欧に比べ観念的に森林を見る日本人の恵みは、森林の生命活動によって重複の恵みは、森林の生命活動によって重複的にもたらされるものだから、「森林から的にもたらされるものだから、「森林から的にもたらされるものだから、「森林から前にもたらされるものだから、「森林から前にもたらされるものだから、「森林から前の用」を評価し、どのような森林ともつきあっていってほしい」と願います。 一つきあっていってほしい」と願います。

> れています。 た「世界の森林、日本の森林」と章を追 とらえる」、地球的な森林の現況を紹介し 冒頭の結論が納得できるようにまとめら 森林の移りを見た「歴史の流れで森林を 創る技術、育てる技術」、二万年前からの の造成の技術と問題点を明かす「森林を に何が起きているか?」、人の手での森林 酸性雨の被害まで俯瞰した「地球の森林 に何を求めるのか?」、熱帯林の喪失から 期待が過剰、と警告した「現代人は森林 る「山村の崩壊と森林の荒廃」、森林への 中からも森林離れが起きている状況を探 創る森林、人が創る森林」、山村の意識の きないという「森林の価値とは何だろう」、 人に育てられた森林を紹介する「自然が 「人間にとって森林とは何か?」と

書。 林・林業の大事さを伝えようとした啓蒙 林・林業の必要性を説き、都会の人にも森 の林業にたずさわる人にも新しい視点で

社・辛750)。 という副題のある新書を発行(青春出版 さんが「NASA・ファイルX緊急警告」 にいるのはもう限界だ 会員の 無しているのはもう限界だ 会員の

候を紹介し、「人間のエゴによって、あ・酸性雨・有毒ガス・農薬・放射能の徴あるように、進みつつある地球の温暖化「地球大汚染」というサブタイトルが

林の価値は多様で貨幣によっては計量での森林観を述べた「森林を見る心」、森

警告・提案しています。作り出してはならない」(180分)とる種の生物が生きられないような環境を

米の文化のすばらしさに、改めて心打た れ、農業の大切さを考えさせられます」 だけでなく、緑ゆたかな国土を育てます。 刊されました(拏一一〇〇。〒四五〇)。 ます。環境問題を手軽に概観した手引書 マンの作品で訴えています。 田(表紙)から北海道女満別町の防風林 と紹介されているように、石川県の千枚 米』がジャパンプレス・フォートから発 のシュミレーションを交えて展開してい 有の熱っぽい口調で、最新の情報や得意 存への最後の選択」の四章から構成。特 薬、放射能を浴びつづける3年後5年後. の30年、 われていますが、「水田は米を生産する 警告通りおこってきた」「有毒ガス、農 「X年までの秒読みついに開始、人類生 (12月) まで、土門拳など一流のカメラ 毎月、水田(米)にまつわる写真が使 日本の米 「ガンはますます増えるその要因」「こ 地球の異変現象はファイルXの とめたカレンダー『日本の 会員の富山和子さんがま

役立てる」ことも明記されています。なお、この益金は「環境を守る活動に

林利用と自然保

経済学からみた森林の自然保護

からみた森林・林業と自然保護についてお話し ≪北畠佳房筑波大学助教授の問題提起≫ 環境の経済学を専攻していますので、経済学 (敬称略) 大内、岡、北畠、 中、遠山、福島、萩野 大日本山本会会議室 杉本、

田

九月三〇日

くことの問題性」を指摘した。クルティラのい 質は低下していくので、生活水準は改善されな 半ばに「今後物質的には豊かになるが、環境の 学にかかわるもの)。②クルティラが六〇年代 力を枯渇させないように利用する(公害の経済 境は汚濁物質の浄化作用を持っており、その能 こでは、環境における経済学の視点として①環 経済』という論文を読んだことがきっかけ。そ 院を出て暫くした一九七六年に『環境における かも知れない。このまま市場原理に任してお 私が自然環境保全に興味をもったのは、大学 一、私と森林問題とのかかわり

> ということは傾聴に値する(自然保護の経済学)。 う「自然環境の質に取返しのつかない悪影響を 便益の評価は難しい、②自然環境の所有権が開 行為の便益は計算しやすいが、保存する自然の 由としてクルティラ次の5つをあげた。①開発 と「社会全体の利益」とは乖離しうる。その理 経済の枠組みの中で行動する限り「私的な利益」 及ぼすような選択の意思決定を真剣に考えよう」 原生自然環境にダムなどをつくる場合、 市場

> > 要である」という。 るべき行為を決める意思決定の基準の研究が必 将来おこりうる事態と矛盾しない形で、現在と は「自然環境は一度壊せば取返しがつかない。 自然環境にたいする評価が高まる。クルティラ

トラストを対象に考察をした。 国でも根付いているかどうか」ではナショナル プス・スーパー林道、「オプション価値がわが 私共も「不可逆性下の意思決定」では南アル

三先生とも共同で研究をした。 ション価値」について探ろうと、会員の西岡秀 まず、ナショナル・トラスト運動から「オプ 二、環境の経済学からみた森林問題

財の度合いに応じてどんな保全の仕組みを考え めてみたのが第1表だ。 るさとの森)」「天神崎」「知床」などに拠金した ていけばいいのかをさぐるため「分収育林(ふ 私的財要素の強い公共財もある。そうした公共 ような純然たる公共財から、生垣の緑のように 人を対象にアンケートをした結果等をとりまと 公共財と私的財の間には「遺伝子保存林」の

になるのではないか。「オプション価値」につ ためか、期待した反応が得られなかった。 いては調査文言が適切でなくて理解が不十分の しようというとき、こうした事項がキーワード 今後、民間の資金を活用して自然環境を保全

性だけで自然や森林を開発し、荒廃させてきた 分析を試みてみた。よく「経済の合理性や効率 南アルプス・スーパー林道について、経済的な 三、開発か自然保護かの問題で例に出される

上は自然環境に対する意識の向上をもたらし、 上がる、⑤人口増加、所得向上、教育程度の向 境の再生産技術には技術進歩はあまり貢献しな 招き、開発便益は縮小しうるが、貴重な自然環

いから、自然環境サービスの相対的価値は将来

然が残されているように、保全の費用をいま払 えるもので、将来訪ねていったときにそこに自 の評価が異なりうる、③オプション需要ともい 発側にあるのか保全側にあるのかによって便益

ってもいいというオプション価値を評価するべ

④技術進歩は原材料の生産コストの低下を

一般物価指数と木材価格の指数を比較すると性はあまり考えられなかったといえる。いる。公的行為については経済の合理性や効率とれは公的行為については正しくないと思って歴史を問い直そう」ということがいわれるが、

林大臣の大増伐命令にもなるが、増伐は確かにぼ一○○だが、木材が異常に高騰する。河野農一九五二年から六一年まで一般の物価指数はほ一般物価指数と木材価格の指数を比較すると

に力を入れ始める。 としては疑問は残る。一九六四年頃輸入材が入としては疑問は残る。一九六四年頃輸入材が入としては疑問は残る。一九六四年頃輸入材が入としては疑問は残る。一九六四年頃輸入材が入としては疑問は残る。

|一五六年まで便益がなくて費用だけ投入して南ア林道の便益と費用を比較すると、一九五

第一表 ナショナル・トラスト運動等の特性の整理

| 区 | 費用負担の特徴 | 公共財的性格 | 供給に | 消費に | ただ乗り問 | 私的財 | 消費便 | (現在 | 抗議行動と | クルティラ | 行って | 子供の | 将来站 | 夢とロマン | 拠金の費用 | 保全面 | 自己和 |
|--------|----------------------------|--------|-------------|------------|--------------------|------------------|-----------|-----------------------------|----------------|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--|---------|------------------|-----------------|--------------|
| 分 | 特徴 | 格 | 供給にさいしての排除性 | 消費における非競合性 | 問題を乗り越 | 私的財産利益あるか? | 消費便益があるか? | (現在・近未来) | 抗議行動としてのシンボル効果 | ,の3つの価 | 見れなくと | 世代に残し | 切ねた時に左 | | 円効果を高め | Щ | 自己利用の視点 |
| | | | 排除性 | 合性 | えての支払 | か? | ? | | ボル効果 | 値(自然保 | も存在する | たい=遺贈 | 在していて | | 拠金の費用効果を高める規模の効果 | | |
| ふるさとの森 | 育林費を分 | | 弱い(町冬 | 弱い | い意思 | 有り | 有り | (強い) | 無し | 護として支 | ことに価値 | 価値 | 欲しい=オ | 有り | 果 | | |
| 森 | | | (例で優遇) | | | | | (地元城 | | 払ってもい | =存在価値 | | プション価 | | | | 有り(|
| 天神崎 | 数は5千円2 | | 強い | 強い | | 無し | 有り | 金者43%) | 強い (36 | い価値) | 有り(30 | 有り(8 | | 不明 | | 弱い | 親光地背景 |
| 知 | | | 強 | 強 | | /III. | 有 | (北海道 | | | % | | | 右 | | 強い(背景 | |
| 知床 | 多数は8千円 | | が | い | | Ü | E) | 過拠金者15%) | 『りと推測 | | | 育り (23%) | い 1.6 % | 句 (12%) | | 京の国有林含め | 行り |
| | 育林費を分担 拠金多数は5千円以下 拠金多数は8千円 | | 弱い(町条例で優遇) | 弱い | ただ乗り問題を乗り越えての支払い意思 | | | (強い) (地元拠金者43%) (北海道拠金者15%) | 無し | クルティラの3つの価値(自然保護として支払ってもいい価値) | 行って見れなくとも存在することに価値=存在価値(有り(30%) | 子供の世代に残したい=遺贈価値 有り(8%) 有り(3%) | 将来訪ねた時に存在していて欲しい=オプション価値 弱い(0.%) 弱い(1.%) | 不明有り | 模の効果 | 弱い 強い(背景の国有林含め) | 有り(観光地背景) 有り |

った。

とレク入込みの観光消費額(山梨県調査)、治 かり八○年に開通する。八二年には台風の被害 め木材の伐採が始まる(野呂川林道の完成は六 いるときで、五六年ころから夜又神峠が開き始 いる。野呂川林道の工事が夜又神峠にかかって 調査をふまえると、最後の一・五畑だけでも残 問題だったといえる。ナショナル・トラストの 発しても純便益は増えない。経済効率性からは トはあったといえる、南ア・スーパー林道は開 後大きくプラスになっていくので開発のメリッ 山費といった指標で計上してみた。それを実質 で費用が大幅に上回る。便益は木材の伐採収入 したほうが、神秘性の保留という意味でも良か 1図だ。野呂川林道は当初マイナスだが、その 価格に換算し、便益から費用を差引いたのが第 年)。その後南ア・スーパー林道の建設にか

本護教したような地域効果はあったともいえる。 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ とは思えない。「経済の合理性・効率性で森林 を破壊」というのはこうした事実からも相違する。評価のなかには、パイがどれだけ大きくなったかという視点と、「誰が便益を被るか」という視点がある。奥地の大規模林道開設は、国民的経済評価ではマイナス。しかし、所得分配民的経済評価ではマイナス。しかし、所得分配民的経済評価ではマイナス。しかし、所得分配民的経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域経済が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域を持続が便益を被ることはあろう。南ア・ 大型域を表ができ、災害復旧を考えれば、工場 を誘致したような地域効果はあったともいえる。 計

画

変

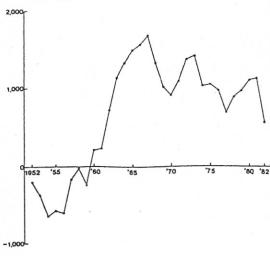
更

過誤

主体性

正しい決定

-1 スト 使益 第1図



いことかどうかだ。 と認識」することが大事である(第2表)。 予想と二種類の過誤を、意思決定に際してしか こうした開発行為に対しては「将来に対する

ろう。木材の使用が代替材にとって変わられる

この背景に需要構造が変化してきたこともあ

天然林施業

八三五

流れがあるようだ。

ただ、そういう形で地域振興をはかることがい

三、白神問題へのアプローチ

①制度的枠組みと近時の急激な変化 (昭和)と六二年で大幅に変わった。 森林資源に関する基本計画の枠組みが五五年

指向する森林資源の状況(万m) (五五年) (六二年)

天然林 一六一 一二三九 一五〇 一三〇五

施業方法の変化(万加)

三つの視点から考えたい

第五次=六二年四月)も変わった。

したがって、白神山地の施業計画(津軽南部

四次計画(57-61)五次施業計画(六二-

月までに生物圏保存計画による線引きの答申が 思われるが、過去からの複雑な事情があるよう ところが林道予定地の保安林近くから流れだす 林道の誘いがされ、青秋林道の計画になった。 そこへ秋田側から地元負担のほとんどない広域 行われる。美山湖の水没地の住民三八人に六四 ので、当該保安林解除の影響は下流にはないと は発電ダムがあってかなりの水を取水している がでて工事は見合わせている。赤石川の途中に 赤石川の下流の漁業組合員を中心に、反対署名 か開設できなかった。しかも、地元負担五割。 事業としてすすめられたが、三年で三九○mし hの森林が与えられたが、そこへの林道が県単 MAB計画に関する委員会ができて、来年三 漸伐・皆伐 0000ha 二八〇〇㎞ 七100kg 三五三〇ha 二七六〇加 四七〇〇日

意思決定

真の状態

仮説1.

今後も国産材中心

仮説 2.

自然など本物志向増大 自然への質的志向高まる 今後は外材中心

主体別

ーコスト 便益

自然環境保全の質的志向不変 余暇人口に占める本物志向小

スーパー林道着手 (拡大造林継続)

正しい決定

②白神山地におけるブナの利用・流通の現況と 地域の実態は、過疎地帯で出稼ぎ者も多く(町

32

一五〇

人工林施業 一二三九

(単層林)

(複層林含む) 一三〇五

雇用対策が課題になっている。の占める就業者は三五~五○%となっていて、村別に六・七%から二七・五%)、第一次産業

昭和六〇年 三三八千㎡(一〇〇%)局のブナ伐採量の推移をみると 一方ブナ林の施業と今後をみるため青森営林

六三年 二六八千㎡ (七九%)

通面を調査してみた。はかるという。その時の影響を考察するため流はかるという。その時の影響を考察するため流てれを将来一〇万㎡台まで落とし、資源保全を平成元(予定)二四八千㎡(七三%)

青森営林管内のブナの伐採量

二五万はパルプ・チップ向け。

一五万はパルプ・チップ向け。

一五万はパルプ・チップ向け。

一〇〇〇)と落ち知)。

営林署別の伐採量で、白神山地を抱える知)。

営林署別の伐採量で、白神山地を抱える知)。

営林署別の伐採量で、白神山地を抱える知り。

される。

五七・八年には二・七万程度の伐採がないる。

五万ばのうち

るような形で行動すれば予定調和が達成される」自分自身の心の中で公正な第三者が同居していが予定調和するには、各人は私益で行動するが、

プ、ユーカリが優れている。

予定調和論はアダム・スミスの「利益と公益

しているが、ブナは一等材一○○に対し四等材材一○○に対し四方無節一一五三=昭和五1年) 動は二六人、村の企業体のバーク堆肥四人、マイタケ製造二○人でブナ材の雇用力は大きい。 働は二六人、村の企業体のバーク堆肥四人、マイタケ製造二○人でブナ材の雇用力は大きい。 産用労働は二六人、村の企業体のバーク堆肥四人、マイタケ製造二○人でブナ材の雇用力は大きい。 はこれ、対の企業体のバークない。 が、ブナは一等材一○○に対し四等材

い。パルプの影響があるようだ。違いといわれている。単価も余り上がっていなは五○で価格差がそれ程なく施業技術の効果の

③国有林経営方針の変遷と時代背景

国有林の現地では「予定調和論」ということと調べたが、昭和三五年の『国有林野経営規定の解説』に「量的にも質的にも充実した立派なの解説』に「量的にも質的にも充実した立派な会と産業の保護、保健休養の場としても相応しい」(要旨)とある。「木材生産をしっかりやっていれば、おのずと他の公益的機能は維持できる」という考えだ。

大きく変わってきたと思う。

《質疑討論》

☆スギ・ヒノキとは価格の立てかたが違う。使☆白神はパルプの比率が高く割安だ。

☆皆伐では小径木が多い。製紙会社用に里山開☆チップ用になぜ多く切るのか。 用者が特定しているので競争原理が働かない。

☆パルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆パルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆パルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆パルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆パルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。 ☆ペルプを考えればブナは温存すればいい。

がある。 の調査では、マスコミの報道の時期にピーク北畠(ある。「知床などの情報を知った時期」

も、一○○ゴ運動の地だけを求めたのでなく、 なることが理解されていないのでは。知床で なることが理解されていないのでは。知床で が、どうか。

ためらいがある。☆官庁は、一度決めたことを動かすには大変な☆官庁は、一度決めたことを動かすには大変なるべきでなかった。

一般的にはどうか。天然林更新の研究が必要。 ☆アナの更新技術は特定の地域では通用しても くて「切るな」だけでは困る。 とで、その方面の話を聞いていない。 とれがな をで、その方面の話を聞いていない。

丹沢山系の森林を訪ねて

こうした拠金者の心情を踏まえると択伐はや拠金している心情だ。過去に合意があっても、背景にある広大な原生林と一体のものとして

© 上,一○月一四日 多加者(敬称略)大内、岩崎、杉本、田中、場 所 神奈川県丹沢山系

全木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) 《大山・モミ原生林の枯れ》 全木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) 全木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日) を木は三七%という結果(東京新聞・九月七日)

≪諸戸山林の状況≫

でくれない」という悩みもでました。でくれない」という悩みもでました。なが常理する河川敷でキャンプをするが、管理はが管理する河川敷でキャンプをするが、管理はが管理する河川敷でキャンプをするが、いまのにも開放しなければならないだろうが、いまのにも開放しなども説明。また「年間七○万人の入か心配」などと説明。また「年間七○万人の入か心配」などと説明。また「年間七○万人の入か心配」などと説明。また「年間七○万人の入か心配」などと説明。また「年間七○万人の入りでは、

≪札掛のモミ林≫

の問題を投げかけます。 の問題を投げかけます。

『基金制度を検討している」とのこと。 県の説明では、「『県民手づくりの森』一六 「基金制度を検討している」とのこと。 『基金制度を検討している」とのこと。 『基金制度を検討している」とのこと。 「基金制度を検討している」とのこと。

の方は到着しだい掲載 いたち、著作、 紹介。する欄です。生 します) (五〇音順、 ジなどお寄せ下さい。 好きな本、 一部未着 メッセ モット

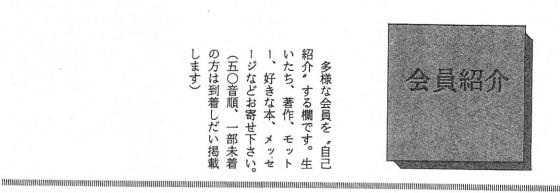
ス解説を担当。

水産番組の制作に従事。後ニュー

副会長を二十二年、(財)森とむら 岡県森林組合連合会の専務理事、

の会理事長を六年やっている。

昭和三五年NHKに入り、農林



採用。以後講師、 学博士。同年新潟大学工学部助手 き揚げ後高松、 朴土木工学専攻博士課程修了。工 九七四年同大学大学院工学系研究 京大学工学部土木工学科卒業、 と次第に北上する。一九六七年東 九八五年教授、 九四二年台北市に生まれ、 現在に至る。 助教授を経て、 長岡、新潟 引

済学科卒業。

生まれる。東京大学農学部農業経

昭和一一年茨城県水戸市大町で

(NHK解説委員)

多様な会員を "自己

張してきました。 なければ本物ではない、と常に主 生きる人々の立場や考えを理解し あってはいけない。農林水産業に 森林保護は都会の人間の遊びで

> ど、できるだけ公共施設に木材を としては四期目。木レンガ舗装な

使うようにしている。

学のすすめ』全五巻、

『生涯学習

著書『山とむらの思想』、『地域

最前線』ほか。

世紀も唱え続けながら、林業不振

森林組合の育成強化を四分の一

に陥った絶望感が深い。掛川市長

害』(東大出版会、一九八一年)、

著は『利根川治水の変遷と水

洪水と治水の河川史』(平凡社、

九八八年)。

現在、新潟の水辺を考える会会

質力学にも研究対象を拡げる。 に移り住んでからは雪氷工学、土

専門は河川工学、土木史。新潟



大點 能



孝が

加倉井

弘章

掛川市森林組合長を二十六年、静 生まれた。林業と製材工場を経営。 九三四年、掛川市の農山村に (掛川市長)

榛は 村等

35

水辺ウォーキング。

作委員会代表。趣味は日帰り登山 長および映画『阿賀に生きる』製

杉普 本是 はじめ

隅が

一喜 * 男 *



会専務理事。 務理事。現在は 員ののち、 都大学農学部農林経済学科卒。 朝日新聞社経済部記者、 九二四年、愛知県生まれ。 (財) 森林文化協会常 (財)森とむらの 論説委

と思う。 業に対して、都市住民の深い理解 森林会議設立の本義もここにある を求めることが欠かせない。国民 な矛盾を直すためには、 は一段とさびれてゆく。 緑への国民的関心が高まる一方 林業はいよいよ沈滞し、 この極端 山村

っている。 ぶ架け橋の一端を担えたら、と願 及ばずながら、都市と山村を結



東京の麻布谷町と

半は林野を担当し、日本の森林問 年退職し、信州大学に移って経済のまま三〇年余もいて、七七年定 国一の製鉄所となっている。敗戦した。今は鞍山鋼鉄廠と言い、中と考え、満州製鉄なる会社に就職 というほど見させられた。 公共企業体等労働委員をやり、 やって八八年退職。この間十年余 学部創設にかかわったが、三年で 東京女子大学に移る。学長を八年 し直そうと考え、東大に戻り、そ で帰国し、もう一度経済学を勉強 植民地労働者の中で仕事をしたい ろう。東大では経済学を勉強し、 っても迷惑に思う人々はないであ ってしまったので、 では赤坂アークヒルズの一画とな いう貧民街に生れ、 とくに林野労働の問題をいや 貧民街だと言 育った。今日 後

日本緑化センター理事など。

著書に「林分施業法」「樹海に

はしろうとであるが、事の重大性 なった。そういう意味で森林問題 議の創設以来、関係をもつことと これがきっかけで、国民森林会 بخ 生きて」「詩集・どろ亀さん」な

高な 橋は



九一四年岩手県沢内村生まれ。

林に勤務し、いらい樹海に住みつ 昭和一二年東京大学農学部林学科 き四九年同林長退職。東大名誉教 ンルネッサンス (緑維新) 現在、緑の文明学会会長、 通称どろ亀さん。 同一三年東京大学北海道演習 グリ 代表、

好きな作家は武者小路実篤。

延。 清:

後編記集

○…他の用事があって東南アジ

ランもあるようです。 の数倍の規模をもつ苗畑を五カ所 はタイの技術として確立し、ここ 年前から始められた事業で、 状況もみました。日本の援助で八 につくられた造林実験教育施設で では、保護区に隣接する伐採跡地 東北に二八○ホト行ったサケラート る」という指摘を聞きました。 れだけに〝熱帯林の保全〟を求め の何倍も伐っていながら、われわ た。 つくり造林に励もうし アで開かれた会議に出て参りまし 合板工場で「欧米は自国では南方 から熱っぽい主張がされていまし 護」について、ヨーロッパの方々 ○…また、タイのバンコクから ○…帰途立寄ったマレーシアの 会議の席上でも「熱帯林の保 というプ

待もふくらみます。 きか」「何をせざるべきか」が浮 重ね合せるだけで、 んできそうです。新たな年への期 ○…垣間見たいくつかの事実を 「何をするべ

は『世界』の八九年十一月号に書 は痛感している。その感想の一端

関心ある方は一読乞う。

森林の未来を憂えて

国民森林会議設立趣意書

日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 一九六〇年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村から大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

とに暗いといわねばなりません。 大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

一、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。

一、森林は、林糞にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が 近いのではないでしょうか。

たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。

一、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。 一、いま、わが国は、木材需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように 一、山村に住み、林葉で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。 かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。 このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆだねておくべきではありません。美しい国土と緑を

期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 を望んでやまない次第です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご贊同とご加入 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林業、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を

一九八二年一月九日

玉 民 ح 森

1990年新春号 第31号

- 1990年1月1日
- 隅谷三喜男
- 国民森林会議 東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03 (583) 2 3 5 7
- 1,000円 (干共) 定 (年額 3,000円)